

2018 年度
経営学部
3 回生「専門演習」要項



専門演習の募集・受講にあたって

2回生後期になり学びを広げさらに深めるときになりました。3回生からいよいよ大学の中心の一つ、「専門演習（ゼミナール、略してゼミ）」が始まります。自分自身の特性や今後の方向性を考えて、教員と学生相互とが専門的な経営学の研究テーマを追究する自主的な学びのコミュニティに参加すること——これこそがゼミであり、大学生活の集大成（キャップストーン）ともいえるべきものです。

ゼミはそれぞれの教員毎に募集します。専門分野の教員のもとで学び・議論を重ねることで、特定の領域の知識を深めるとともに、より広い視野からのその相対化を行います。同時に、教員やゼミのメンバーとの間での共同作業や交流、またフィールドワークやゼミナール大会等、正課内外でのゼミの活動は、その困難も含めて、大学生活のすばらしい経験となるでしょう。

ゼミは原則として2年間継続します（留学などの場合は個別に相談してください）。ゼミは科目としては3年生から卒業までの「専門演習Ⅰ～Ⅳ」および、4年生後期「卒業研究」からなります。各「専門演習」では、担当教員の指導の下、研究に必要な方法論、理論や創造性を Semester 毎の課題を通して段階的に修得し、関連する専門科目はもちろん外国語やその他科目の知識を基礎に、経営学の現代的諸問題から研究テーマを定め、メンバーと討論しながら卒業論文の作成をめざします。「卒業研究」はゼミでの研究と大学生活の集大成である卒業論文を一人ひとりが作成・提出します。優れた研究や深められた関心は経営学研究科等の大学院に進学してさらに発展させることもできます。

「専門演習」は必修科目ではありません。しかし、それだけに大学での成長の貴重な機会としてゼミに所属することを強く推奨します。また、個々のゼミの選択も重要ですが、より肝腎なのは2年間所属するゼミに積極的に参加し、自主的に論文を作成することで、その後の自らの社会での活動の基盤が形成されうることです。

この要項をよく読んで実際のゼミの選択・履修に活用してください。

みなさんにとってゼミでの大学後半の2年間が有意義なものになることを経営学部教職員一同期待しています。

2017年10月

立命館大学経営学部 学部長 佐藤 典司

「専門演習Ⅰ～Ⅳ」の履修・申請手続について

1. 募集対象

2017 年度 経営学部 2 回生在学者(正規留学中の学生を含む)

※専門演習への応募にあたり、成績や修得単位数については問いません。

※現在正規留学中の学生も募集対象となります。

※専門演習の募集は 2 回生の後期にのみ実施します。2018 年度に正規留学および 1 年間の休学を予定している場合も今回の募集対象者となります。留学帰国後および復学後の募集はありませんのでご注意ください。

※「正規留学」とは、立命館大学経営学部及び立命館大学国際部が提供する留学プログラムを指します。休学して私費留学中の場合は、今回の募集対象とはなりません。

2. 受講期間

3 回生、4 回生の各セメスター(計 2 年間)にそれぞれ「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」を受講

3. クラス定員

各クラス 20 名(学科共通) ※選考結果次第では、定員内の応募であっても不合格となる場合があります。

4. 単位認定

- ① 「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」(各 2 単位)は各セメスターで評価され、4 回生後期に 10 単位全ての単位を修得した時点で、卒業に必要な単位(自学科・自コース専門科目)として算入します。10 単位全ての単位が修得出来なかった場合は、卒業に必要な単位として算入されません。
- ② 正規留学の措置として、「専門演習Ⅰ～Ⅲ」は、留学期間中の受講を免除します。単位は、受講を免除された期間以外に修得した「専門演習Ⅰ～Ⅲ」及び「専門演習Ⅳ」「卒業論文」をもって要卒単位に算入します。なお、8 セメスターの「専門演習Ⅳ」「卒業論文」は受講免除を行わず、「専門演習」の卒業に必要な単位の算入において必須科目とします。
- ③ 一度 F 評価を取得した後は、その後の科目を受講することができません。

5. 受講登録

- ① 「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」の受講登録は事務室にて行います。
- ② 「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」は受講登録上限単位数に含まれます。
- ③ 履修途中での受講辞退は認めません。

6. 専門演習クラスの変更・途中参加について

- ① 専門演習は、履修途中においてクラスを変更することは出来ません。
- ② 途中から(Ⅱ以降から)新たに専門演習へ参加することは出来ません。

7. 留学時の手続きについて

正規留学プログラムに参加する場合、留学期間中の「専門演習Ⅰ～Ⅲ」の受講は免除されます。

留学帰国後は、留学前と同じクラスに所属し継続履修をすることができます。

留学から帰国したら、履修を希望する専門演習開講セメスターの受講登録修正期限日時までに、54 ページの『留学に伴う「専門演習特別履修」申請書』に必要事項を記入の上、学びステーションまで提出してください。

※「留学」とは、立命館大学経営学部及び立命館大学国際部が提供する留学プログラムを指します。休学して私費留学をする場合、特別履修の対象とはなりません。

※面接については、各担当教員の指示に従ってください。

8. 休学・復学時の手続について

- ① 休学により「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」が受講出来ない場合は、復学後に休学前と同じクラスに所属し受講を継続することができます(ただし、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」の全ての単位(10 単位)が揃わなければ、要卒単位に算入されません)。
※復学時に休学前に所属していた教員の専門演習が開講されていない場合、定数に余裕のある他の教員の専門演習で受入審査を申込むことができます。ただし、審査結果によっては専門演習への所属が出来ない場合があります。
※休学のタイミング・期間により、卒業までに要卒単位としての算入に必要な 10 単位が揃わない場合があります。
休学する際は、必ず事前に学びステーションにご相談ください。
- ② 復学後、専門演習の継続履修を希望する場合は、履修を希望する専門演習開講セメスターの受講登録修正期限日時までに、52 ページの『復学・再入学に伴う「専門演習」履修申請書』に必要事項を記入の上、学びステーションまで提出してください。
※再入学の場合についても休学同様に履修方法について学びステーションにご相談ください。

9. 募集・選考日程（変更となる可能性があります。変更の場合は CAMPUS WEB にてお知らせします。）

*仮申込をしていない方は本申込不可

**第1次申込をしていなくても申し込み可

***第1次、第2次申込をしていなくても申し込み可

行事	日時	場所
全体ガイダンス・要項配布	9月27日(水) 12:20～12:50 9月29日(金) 12:20～12:50 10月2日(月) 12:20～12:50	AN 210
ゼミ選択のための交流会	10月3日(火) 14:40～17:50 10月6日(金) 14:40～17:50	別途お知らせします
オープンゼミ・クラス・面談日	10月10日(火)～10月27日(金)	別途お知らせします
第1次仮申込期間	10月10日(火)9:00～10月16日(月)17:00	Web 申請
第1次仮申込状況発表	10月18日(水) 13:00	HP
第1次本申込期間*	10月19日(木) 13:00～10月30日(月) 17:00	Web 申請
第1次結果発表	11月17日(金)13:00	HP
オープンゼミ・クラス・面談日	11月20日(月)～11月28日(火)	別途お知らせします
第2次仮申込期間**	11月17日(金) 13:00～11月20日(月)17:00	Web 申請
第2次仮申込状況発表	11月22日(水) 13:00	HP
第2次本申込期間*	11月22日(水)13:00～11月29日(水)17:00	Web 申請
第2次結果発表	12月15日(金)13:00	HP
オープンゼミ・クラス・面談日	12月18日(月)～12月22日(金)	別途お知らせします
第3次仮申込期間***	12月15日(金)13:00～12月18日(月)17:00	Web 申請
第3次仮申込状況発表	12月20日(水) 13:00	HP
第3次本申込期間*	12月20日(水)13:00～1月5日(金)17:00	Web 申請
第3次結果発表	1月19日(金) 13:00	HP
ゼミクラス懇談会	後期試験終了後 (1月30日(火)・1月31日(水)を予定)	後日お知らせします

《注意事項》

※本申込に応募するためには、必ず仮申込に応募する必要があります。

※クラスによっては第2次、第3次申込を受け付けない場合があります。

【第2次申込について】

第1次申込でクラスが決定しなかった場合、第2次申込を受け付けます。

仮申込、本申込方法は第1次申込と同様、申請期間中に Web 入力で申請してください。

※ 第2次申込は、第1次申込をしていなくても、申し込み可能です。

【第3次申込について】

第1次・第2次申込でクラスが決定しなかった場合、第3次申込を受け付けます。

仮申込、本申込方法は第1次申込、第2次申込と同様、申請期間中に Web 入力で申請してください。

※ 第3次申込は、第1次申込、第2次申込をしていなくても、申し込み可能です。

10. 仮申込方法・仮申込状況発表について

【仮申込方法】

仮申込をしていない方は本申込ができません。

- (i) 経営学部 HP⇒在学生の皆さまへ⇒コース・ゼミ関連⇒(2 回生対象)に、申込期間中に Web 申請画面へ入るためのリンクを貼ります。下記手順に従って必要事項を入力し、送信してください。

＜経営学部 HP＞

<http://www.ritsumeai.ac.jp/ba/>



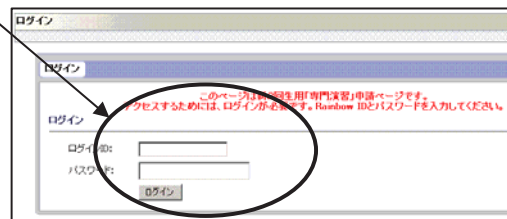
経営学部 HP トップ画面



在学生向けページ画面

②こちらに情報が掲載されます。

- (ii) ログイン画面で Rainbow ID とパスワードを入力する。



- (iii) 必須項目を入力する。

- (iv) 希望クラスを選択する。

※専門演習の履修を希望しない場合は、
「履修を希望しない」を選択してください。

Q1 ▲ 下記を入力してください。(全て必須項目です)

学生証番号

氏名 姓: 名:

携帯電話番号

Q2 クラス選択

希望するクラスを選択してください。
※専門演習の履修を希望しない場合は、「履修を希望しない」を選択して下さい。

- (v) 「送信」ボタンを押して提出する。

送信ボタンを押さないと、仮申込は完了しません！！

※送信完了後の確認画面は印刷して各自保管するようにしてください。

※申請期限日時までに内容を入力の上、送信ボタンを押してください。

申請期限日時を過ぎると、送信ボタンを押しても受付できません。

【仮申込状況発表】

各クラスの仮申込状況発表は、経営学部 HP⇒在学生の皆さまへ⇒コース・ゼミ関連⇒(2 回生対象)に掲載します。

11. 本申込方法・選考・結果発表について

【本申込方法】

本申込には、「専門演習志望クラス・レポート課題」の提出(Web)が必要です。

「専門演習志望クラス・レポート課題」

(i) 経営学部 HP⇒在学生の皆さまへ⇒コース・ゼミ関連⇒(2 回生対象)に、申込期間中に Web 申請画面へ入るためのリンクを貼ります。下記手順に従って必要事項を入力し、送信してください。

(ii) 仮申込時と同様の手順で申請画面にログインする。

(iii) 必須項目を入力する。

(iv) 希望クラスを選択する。

※仮申込時と異なるクラスの選択を可とします。

(v) 「2018 年度専門演習要項」5～12 ページに掲載している各クラスの課題に従って、志望理由・レポート課題を入力する。

(注意: 1,600 字以内)

The screenshot shows a web application form with three sections: Q1 (Personal Information), Q2 (Class Selection), and Q3 (Report Topic). Q1 includes fields for student ID, name (surname and given name), and mobile phone number. Q2 is a dropdown menu for selecting a class. Q3 is a large text area for the report topic. Annotations with arrows point from the instructions on the left to the corresponding fields: (iii) points to the name and phone number fields in Q1; (iv) points to the class selection dropdown in Q2; (v) points to the report topic text area in Q3.

(vi) 「送信」ボタンを押して提出する。

送信ボタンを押さないと、本申込は完了しません！！

※送信完了後の確認画面は印刷して各自保管するようにしてください。

※申請期限日時までに内容を入力の上、送信ボタンを押してください。

申請期限日時を過ぎると、送信ボタンを押しても受付できません。

【選考方法】

選考は、各教員によりレポート課題・面談・1～2 回生時の履修状況および各教員の選考基準に基づいて総合的に行います。

【選考結果発表】

結果発表は、経営学部 HP⇒在学生の皆さまへ⇒コース・ゼミ関連⇒(2 回生対象)に掲出します。

《注意事項》

- ① 一旦許可された後に志望クラスを変更・辞退することはできません。
- ② 提出された資料については返却いたしません。

以上

2018 年度 新 3 回生「専門演習」
担当者 / 演習テーマ / 学生レポート課題一覧

※レポートは指定の Web ページに入力の上提出してください。1,600 字まで入力可能です。

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
02	SCHLUNZE ROLF DIETER	海外市場と異文化職場で 成功する経営方式を学ぶ	1. Read the book of montbell CEO, Tatsuno Isamu, and summarize one of his seven decisions briefly. Describe who and what enabled Tatsuno to make the right decision in purpose grow his business bigger. Discuss what you learnt from his insights. Alternatively, [if you study abroad] you can just research the Global Site homepage of montbell KK at URL http://www.montbell.com/ 2. Reason to join my seminar: State what makes you eligible to join my seminar? Are you able to read books and articles in English and other languages? Do you have study abroad? 3. Write your essay in English! 参考書: 辰野勇『モンベル7つの決断: アウトドアビジネスの舞台裏』山と溪谷社、2014 年。ISBN978-4-635-5100606	13
03	陳 晋	アジア・中国市場における 企業の開拓戦略	「アジアの市場変化と企業戦略に対する認識」というテーマで、いままで注目した問題や自分の意見、専門演習で自分が勉強したい内容や研究の方向を含め、まとめてください。(1,000～1,600 字)	14
04	中村 志保	海外進出日本企業の 国際人的資源管理 ーグローバル人材の育成ー	・志望理由(300 字程度)。 ・長所と短所について(300 字程度)。 ・次の①か②のいずれかを選択し、1000 字程度で解答して下さい。 ①現地化について、あなたはどのように考えますか？ ②グローバル人材について、あなたはどのように考えますか？ 現地化やグローバル人材については、ゼミ要項の「使用テキスト・参考書・推薦図書」を参考にし、知識の理解を得てより(よく読んでから)、自分自身の意見を書いて下さい。	15
05	BERNDT ENNO	不確実性に対応して、 「x」の未来物語の脚本を 多元的に描く ーシナリオ方法を実践的 に習得する試みー	A4 縦2枚以内のワード・ファイルで下記の問いに対して、自分の考えを提示・説明した上で、そのプリントを学びステーションへ提出することに加えて、その電子版を添付ファイルとして担当教員のメールアドレスへ必ず送ってください。 (1) 今まで、どのような仮説・方法・結果で、どのようなテーマについて勉強・研究してきたか？ (2) 当ゼミで、どのような仮説で、どのようなテーマ(「x」)について勉強・研究していきたいか？ (3) 当ゼミ(=ご自分+他のメンバー+教員)に対して、どのような期待・不安・希望を持っているか？ (4) 大学卒業後、何がやりたいか？ 又、最後に自分のメールアドレスをも記しておいてください。	16

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
06	守 政毅	アジア新興国市場をめぐる 企業の国際経営戦略	次の4点について、合計1,500～1,600字(①～③は各300字以上、④は簡潔に)で説明してください。 ① 自己紹介: 自己アピール、特にこれまでに取り組んだ諸活動の実績と、その経験を通じて得た成長や教訓 ② 志望理由: 守ゼミナール(テーマ:「アジア新興国市場をめぐる企業の国際経営戦略」)を志望する理由 ③ 学習計画: 大学在学中に達成したい目標と、専門演習(ゼミナール)を含めた具体的な計画プラン ④ 海外経験: これまでの海外での留学、インターンシップ、長期滞在の実績、または今後の計画(※) ※海外経験は、実績・計画についてプログラム名、滞在先国・都市、滞在年・月を簡潔に列挙ください。 ※併せて、<u>2018年度に1セメスター以上の留学予定がない方は、2018年度夏季・BSA I(中国・蘇州大学)に参加することを基本的とし、その意思を④で簡潔に明記してください。</u> ◎応募に当たっては、申込前に下記のWebで2日前までに予約したうえで、教員との面談を受けてください。 予約サイトは、在校者用と留学・休学者用に分かれていますので、該当する方で予約してください。また、海外留学・休学中の方は、SkypeでのWeb面談を行うため、併せてSkype IDを明記してください。 URL: https://reserva.be/2016morizemiboshu 合言葉: 守ゼミ	17
07	RAUPACH SUMIYA JORG	「デジタル革命」における ビジネス戦略とマネジメント	以下のリンクを開いて、Philip Evans「How data will transform business」というTEDビデオ(日本語の字幕付き)を見て、Evans氏の主な論点を予約し(～1,000字)、ご自分の感想(～300字)や志望理由(～200字)を書いてください。(1,500文字以内) http://www.ted.com/talks/philip_evans_how_data_will_transform_business	18
08	池田 伸	新領域のマーケティング: クリエイティブ産業、デジタル化、ビジネスモデル	・志望理由 ・ゼミで取組みたい研究テーマ・アイデア ・ゼミで取組みたい企画・行事、 ・ゼミに貢献できそうな点	19
09	石崎 祥之	国際観光マーケティング の諸問題	選考にあたっては志望理由書を重視する。この理由書の中に、 ① なぜこのゼミを志望したのか ② このゼミに何を期待するのか ③ ゼミにおいて自分が貢献しようと考えられる役割などが1600字以内で具体的に記述されており、ゼミを学生生活の中心におこうとする姿勢が現れているものを優先採用とする。 なお、志望理由書が同等である場合には成績優秀者を優先採用とする。	20

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
10	菊盛 真衣	マーケティングと消費者行動における理論と実証	[1] このゼミを志望する理由について教えてください。(300 字以内) [2] 学生時代に力を入れて取り組んできたことについて教えてください。(300 字以内) [3] あなたの強みと弱みについて教えてください。(それぞれ 50 字以内) [4] [3]の強みと弱みがよく伝わるエピソードを教えてください。(それぞれ 200 字程度) [5] 自分にキャッチコピーを付けてください。(30 字以内) [6] 第 2 期生としてどんなゼミを作っていきたいか(ゼミの活動方針、活動内容、雰囲気など)、あなたの意気込みや熱意を教えてください。(300 字程度)	21
11	木下 明浩	マーケティングの理論と実践:ブランディングを素材として	(1) 3 回生「専門演習」要項を読んで、志望理由を書いてください。 (2) これまでの人生をふり返りアピールできる点と、将来の進路を簡潔に書いてください。 (3) 大学入学後に読んだ経営関連の本を 1 冊取り上げて、その内容と感想を簡潔に述べてください。	22
12	金 昌柱	企業の経営課題をマーケティングから学ぼう	・志望理由(とりわけ、ご自分の夢においてこのゼミで取り組む意義について熱意を示してください)	23
13	近藤 宏一	非営利・公共サービスのマネジメント ー交通、文化・芸術、まちづくりを中心にー	① このゼミを志望した理由を書いてください。①②の内容が重複する人は、まとめて書いてもらってかまいません。 ② ゼミでとりあげてみたいテーマや課題を示し、その理由を示してください。理由は個人的なものだけでなく、社会的または学問的な意義を述べてください。また、レポートを執筆するにあたって参考にした文献、雑誌記事・論文、新聞記事を示してください。 これまでの自分の成績が著しく低いと思う人は、その原因を明らかにした上で、改善策を示してください。	24
14	齋藤 雅通	マーケティングの国際比較研究 ー製品・ブランド戦略を中心にー	①私のゼミを志望する理由について、自己紹介を含めて述べなさい。 ②マーケティングで、関心を持っている製品分野、企業、テーマがあれば、その内容と関心を持った理由を述べなさい。 ③在学中の海外留学やインターンシップなどの学習計画があれば、また卒業後の進路について考えていることがあれば、述べなさい。	25
15	佐藤 典司	デザインによるブランドづくり	・志望理由 ・デザインに関することで、あなたがこれまで触れてきたことや、考えてきたこと、学んできたことなどについて	26

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
16	田中 力	統計データによる地域の 経営と社会の分析 ―衣食住を中心に地域の 社会的分業をとらえる―	・志望理由 ・自己紹介 ・卒業後の進路 ・私の勉強法 ・私のふるさと自慢 ・旅行して一番印象に残っている都市や村(海外国内を問わず) ・育てる里山プロジェクト、コミュニティファーム参加の意思の有無 以上について、1000 字程度で簡潔に記述してください	27
17	三浦 一郎	顧客ニーズとマーケティング・コンセプトを考える	・セブンイレブンの鈴木敏文、ユニクロの柳井正、アマゾンのベゾスの 3 人について、彼らが顧客ニーズをどのようにとらえたかに注意して、彼らのマーケティングの特徴だと思うところを述べなさい。 ・志望理由	28
18	吉田 満梨	マーケティング理論を手に、 仲間と共に、 唯一の答えのない課題に 取り組む	(1)なぜ本ゼミ(マーケティングのゼミ)を志望するのですか【400 字程度】 (2)あなたの性格(どんな人と言われるか、自分で思うか)を教えてください【400 字程度】 (3)このゼミで、あなたが他の人よりも得意などんなことで、メンバーに貢献できると思いますか【400 字程度】 (4)あなたが、他の人が誰も共感してくれなくても、正しいと考えている、あるいは重視している考えを教えてください【400 字程度】	29
19	善本 哲夫	産業と社会の新たな インターフェース: 科学技術イノベーションの 社会的付加価値化	・志望理由	30
20	桐畑 哲也	アントレプレナーシップ ―理論と実践―	①自己PR, ②志望理由, ③キャリアデザイン(将来的な目標、計画等について、①との関連で記述すること)について述べよ。	31
21	黒木 正樹	イノベーションと起業家	① 志望理由 ② 10 月以降で気になる政治・経済・企業の動きを取り上げ、各自が選定した「政治・経済・企業」の注目を浴びている背景と理由を自分なりに分析しレポート上で説明すること。また、中心にいる企業や団体、または国は、今後どのような対策をするべきかを書いてください。	32

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
22	小島 愛	少子高齢化時代における 公共・非営利セクターの 貢献	1. 個人的経験等を踏まえて志望理由を具体的に書いてください。 2. 日本における公共・非営利セクターの現状をどのように考えますか。 ※2 は、何らかの文献1つ以上引用しながら述べてください。文献の出所は文末に載せてください。	33
23	谷川 智彦	組織で活動する 個人に関する研究	① 志望理由(300 字程度) ② あなたが組織行動論に関連していると考えた学術論文を 2 つ選び、その内容を要約しなさい。その際、以下のルールを守って書くこと。(それぞれ 500 字程度) 【ルール】 1. 最初に論文に関する情報を記載すること(例: 谷川智彦 (2015)「トップ・マネジメント・チームにおけるリーダーの役割—TMT ダイバーシティ研究への適応可能性—」『経営学研究論集』42, 41-60。) 2. 過去 10 年以内(2007～2016 年)に掲載された論文を選ぶこと。 3. 「なぜこの論文を取り上げたのか」(論文を選んだ理由)を書くこと。 4. その論文の主要な目的は何であり、それはどのような学術的または実務的貢献を含んでいるのかを書くこと。 5. 読み手に理解してもらえるように書くこと。	34
24	中村 真悟	顧客・社会・環境に配慮した 「ものづくり」を考える	下の項目についてレポートを作成しなさい。 ※ 項目ごとに見出しをつけて書き始めてください。 ※ レポートは全体で 1600 字以内ですが、項目毎に 200 字以上は書いてください。 1)志望理由(ゼミで取り組みたい研究テーマとその理由も含めて書いてください) 2)ゼミでの企画・運営面に関わって、自分が取り組んでみたいこと 3)1、2 回生期を通じて、自分が積極的に取り組んだこと(基礎演習、サークル、アルバイトなど何でもよいです) 4)ここ 2 年間で気になった新聞記事・ニュース	35
25	森 祐介	企業組織の経済分析	(a) 志望理由 (b) 以下にあげる事項 1～3 には、「情報の格差(への対処)」という観点から考えると仲間はずれが含まれています。仲間はずれはどれでしょうか。根拠も併せて答えてください。なお、単に正しい仲間はずれを選んでいるかどうかよりも、自らの選択を論理的に説明できているかどうかを重視します。 (事項 1)「出版社が単行本を出版してから、時間をおいて安価な文庫版を出版する」 (事項 2)「企業が『自社製品が気に入らなければ、理由を問わず返品に応じる』と宣伝する」 (事項 3)「オスの孔雀は派手で目立つ羽を持っている個体ほど、メスに好かれる」 ※(a), (b)への字数配分は各自にお任せします。	36

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
26	守屋 貴司	「現代社会の「働き方」と「働かせ方」に関する研究 —女性にとって優しい企業とキャリア形成—	1. 志望理由(400字程度) 2. 大学時代、心をこめて打ち込んだこと、それを通して得られた力(400字程度) 3. 今後のキャリアデザイン・ライフデザイン(400字程度)	37
27	山崎 敏夫	企業経営の国際比較研究 —日本とドイツの戦後を読み解く—	・志望理由 ・将来の進路をどのように考えていますか。	38
28	山崎 文徳	ものづくりの現場から現代社会のこれからを考える	①自己紹介 ②志望理由 ③問題意識と関心のあるテーマ、考察(参考にした資料を下記のように示すこと) 本: 宮崎智彦(2008)『ガラパゴス化する日本の製造業』東洋経済新報社。 雑誌: 河原葵(2010)「アメリカのオープンスカイ戦略と日本」『経済』第176号、5月、143～154ページ。 新聞: 「ボーイング次期大型機、島津、翼部品を受注」『日本経済新聞』2006年12月15日付。 ネット: 日本航空機協会のホームページ(http://www.jadc.or.jp/jadccdata.htm 、2009年8月11日閲覧)。 ※応募にあたっては、事前に教員にメールを送ること (在外研究中のため、面談の代わりに電子メールを利用します。) E-mail: yama2012@fc.ritsumeai.ac.jp	39
29	劉 慶紅	「企業倫理」の視点から学ぶ真の「インターナショナル・マネジメント」 —理論と実践—	志望理由について(A. なぜゼミに入りたいか; B. 今までに自分が頑張ってきたこと)、各500字以内でまとめて記述しなさい。	40
30	浅田 孝幸	ベンチャー・中小企業から大企業まで含めて、 (非営利組織もOK) 管理会計・マネジメント コントロール・原価管理 (コストマネジメント) などの研究	・志望理由と以下のレポート課題いれて、1500字程度で説明してください。 管理会計を学習する意義として、「営利組織の経営の仕組みを学習する」ことが、大きな意義の1つです。この営利組織には、株式会社や有限会社として法人化されているのが、一般的です。この株式会社組織の 経営管理の方法として、利益計画・予算編成・決算と財務開示と株主への財務報告、というのが、多くの企業ではおこなわれています。この一連の仕組みが、必要な理由はどこにありますか。また、これが資本主義社会では、非常に重要な仕組みとして定着している大きな理由を2つあげて(大体の感想で結構です)説明してください。	41
31	大浦 啓輔	管理会計システムと会計情報の有用性	・実在する企業をとりあげ、管理会計や原価計算の実践事例を紹介するとともに、その会計システム(あるいは会計情報)の有用性について具体的に述べてください(1000字程度)。 ・志望理由: 将来の目標や進路と関連づけながら、当ゼミを志望する理由を書いてください(400字程度)。	42

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
32	金森 絵里	日本企業の財務諸表分析	・ 志望理由 ・ 専門演習に対するやる気・決意(500字以上)(これまでの学生生活を振り返り、卒業の進路を見据えたうえで、専門演習にどれほどの決意を持って臨むかについて説明してください。)	43
33	小林 磨美	コーポレートガバナンスとコーポレートファイナンス	・ 志望理由:これまでの経営学部での学びや経験に基づき、なぜこのゼミを希望するのかを書いてください。 ・ 自己紹介:自分の性格や興味、長所や短所などを教えてください。 ・ ゼミでの学び:自己紹介で書いた自分の特徴をどのように活かしてゼミ活動を行いたいのか、卒業までにどのように成長したいのか、の二点を中心にできるだけ具体的に書いてください。	44
34	瀧 博	テクノロジーの進化と企業会計制度の未来	・ 志望理由 30年後の世の中とその中の自分を想像しよう。そして、そこから遡って、今の自分が何をすべきか、その上で、瀧ゼミを選ぶ理由を書きなさい。内容は学修だけでなく、人間関係、人生のあり方など、できるだけ多岐に渡っていると良い。また、ゼミのテーマであるテクノロジーの進化(シンギュラリティを含む)に言及しているとよい。さらに、できるだけ明るい未来を描けるとよい。	45
35	西谷 順平	会計の国際化と国際キャリア形成についての分析 ー国際キャリア早期形成のためのUSCPA在学中取得を兼ねてー	以下の六点を含む自己アピールを記述してください。 ・ 自己紹介 ・ 志望理由 ・ 会計学と自分にまつわるエピソード(高尚なものでなくて全然構わない) ・ ゼミでやってみたいこと・企画(小さいものから大きいものまで何でも) ・ ゼミに望むこと、西谷先生に望むこと。 ・ 下の写真(2013-15年度西谷ゼミ集合写真)を見て、西谷ゼミについて想像すること、将来に西谷ゼミOBとなることについて思うことなど自由に。 	46

クラス	担当者	演習テーマ	学生レポート課題	ページ
36	播磨谷 浩三	金融機関のビジネスモデルの将来展望を考える	・志望理由 ・レポート課題 「金融に関連した自由課題」(下記参照) ※マイナス金利政策の影響や地域銀行の再編、ビットコインの分裂、クラウドファンディングの普及など、最近の金融に関連した話題について、特に関心のあるものを選び、その理由と自らの考えを 1,000 字から 1,200 字くらい(A4 サイズで 1 枚以内)でまとめ、志望理由と同時に提出して下さい。	47
37	松浦 総一	会計・経営のデータ分析	[WEB 上で提出するレポート課題] 松浦ゼミを志望する理由を自分の将来のキャリアとの関係に基づいて書いてください。また、松浦ゼミでやってみたいイベントや勉強会を 1 つあげ、その内容について日程など具体的な計画を含めた実行可能な企画案として提案してください。 [面談時に提出するレポート課題] 与えられたデータに基づいて分析を行い、発見できた事実をレポートにまとめて面接時に持ってきてください。分量は自由です。ただ「企業と会計」のレポートを超える、マーケティングや経営財務論など 2 年次配当科目の知識を用いた内容のレポートを作成することが求められます。また可能であれば、LaTeX あるいは Markdown で書いたものが望ましいです。分析データは以下のウェブサイトダウンロードできます。 http://so-ichi.com/teaching/semi2018.html	48
38	三谷 英貴	コーポレートファイナンスを通して企業経営を考える	(1) 専門演習を志望する理由について (2) あなたの周りの人は、あなたのことをどう見ている(思っている)でしょうか？ 実際、あなたの周りの人に尋ねてみて、どうだったかを教えて下さい。また、その結果は、自分が思っている自分と同じでしたか？ それとも、違っていましたか？ (3) その他、自由記入欄(資格、特技、趣味などの自己アピール、または、悩んでいること、今までの人生でのユニークな経験など)	49
39	佐伯 靖雄	地域プロモーションと企業：茨木市の経済振興を中心に	・志望理由(単なる理由ではなく、あなた自身の個性・特長がどのようなもので、ゼミ活動やクラス運営の場にそれがどう貢献できそうかというアピールも含めて記入してください)	50
40	前田 東岐	組織における個人～組織を通じた自己実現について～	・以下の 3 つのテーマについて、それぞれ 600～800 字程度で述べてください。 ① これまでにもっとも力を注いできた事柄は何ですか、また その成果を自分なりに評価してください。 ② 大学卒業後の目標は何ですか、またそれを実現するためにどのような事を行っていますか。 ③ ゼミナールで組織論を学びたいと考えた志望理由は何ですか。	51

PHOTO 	教員名 シュルンツェ・ロルフ SCHLUNZE, Rolf Dieter	クラス番号 02
教員紹介 ドイツ・ウォルフスブルグ出身です。1983年に初めて来日し、鹿児島から稚内まで日本1周バックパック旅行をしました。その時よく自然に入って山を登りました。それ以来日本が好きになり、ドイツと日本の大学で学んだ後、日本企業の海外子会社と在日外資系企業に対する研究を続けています。国際経済経営地理学研究グループを設立し、国際会議を開催したり、欧州、アジア、アフリカで海外調査を行ったりしています。趣味はアウトドアスポーツとワールドミュージックです。<drds309@ba.ritsumei.ac.jp>		
1. 専門演習テーマ 海外市場と異文化職場で成功する経営方式を学ぶ		
2. 専門演習の研究内容 グローバル経済、グローバル社会において国際経営を行うには異文化の問題を避けては通れない。本ゼミでは、異文化経営の基礎を学んだ上で、異文化問題を克服するための優れたチーム・マネジメントやグローバルなリーダーシップについて考える。グローバル化の刺激によって、企業のビジョンとリーダーシップが文化によってどのように影響を受け、経営方式が変化するかを検討したい。montbell Japan、montbell USA と montbell Suisseのケーススタディをもとに、グローバル起業家精神について研究し、Start-upから市場の拡大や企業社会責任等まで様々な問題を議論したい。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 本演習では経験的な研究を中心的な活動としたい。異文化理解のワークショップを行ったり、企業訪問で日本人起業家、国際マネジャー、在日外国人マネジャーに対するインタビュー調査を行ったりする。また、夏季休暇中、学生は自分で欧米（主にドイツとスイス）で調査旅行を行えるように指導したいと考えている。国際ビジネスや国際マーケティングの実践的な練習にもなるよう、英語やドイツ語でインタビューや、アンケート用紙、研究レポートを作成する。クラス内の発表、卒業論文執筆もすべて英語で行う。 Ⅰ（3回生前期）レポート：アドラーのテキストを読みながら「文化の組織に対する影響」や「文化的な多様性の活用」について学ぶ。ゼミで行われた議論と国際企業家に対するインタビュー調査結果はレポートをまとめる。 Ⅱ（3回生後期）ゼミ論文：テキストやシュルンツェの研究を参考にして「海外出向者や国際マネジャーの成功方式」について学ぶ。国際企業家、例えば辰野勇の本を異文化経営の視点から分析しながら、ゼミ論文をまとめる。 Ⅲ（4回生前期）研究計画：海外調査の準備をするため研究計画を作成。夏季休暇中に海外調査を実施し、まとめて報告書を作成する。 Ⅳ（4回生後期）卒業論文：異文化経営や異文化マーケティングの成功方式に関して、日本アウトドアビジネス企業と欧米アウトドアビジネス企業の比較ケーススタディを行い、卒業論文をゼミ大会また学外で発表する。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキスト：ナンシー・J.アドラー『チームマネジメント革命』センゲージラーニング、2009年 参考書：辰野勇『モンベル7つの決断・アウトドアビジネスの舞台裏』山と溪谷社、2014年 津田倫男『外資系企業で成功する人、失敗する人』PHP研究所、2009年 シュルンツェ・ロルフ「異文化シナジーを創出するハイブリッドマネジャー」『異文化経営研究』7、2010年。 シュルンツェ・ロルフ「日本における中国人ハイブリッド企業家の文化変容とguanxiネットワーク：パネル調査より」『異文化経営研究』第12号、pp. 21-38、2016年。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 1. 和文、英文および独文の文献の調べ方をしっかり身につけたいという意志を持つこと。 2. グローバル企業家やマネジャーとの交流し、英語でインタビューや報告を行い、英語で研究ノートを作るなど、できるだけ英語でがんばろうという意志を持つこと。 3. 日本語ができない外国人留学生と交流し、グローバル企業家に関するワークショップを行い、一緒にアウトドアスポーツ（京都西山や湖西アルプスでハイキング等）を行います。ゼミの学生は全員参加してもらいます。 履修すべき科目：異文化マネジメント論、Cross Cultural Management Research		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） ゼミへ積極的に参加しよう、英語力やドイツ語力を磨こう、異文化を理解しようあるいは認めようとする姿勢。国際レベルでのチャレンジ精神、冒険者精神を持つ学生、あるいはドイツ語を勉強する学生を評価します。		

PHOTO 	教員名 ちん しん 陳 晋	クラス番号 03
教員紹介 中国で生まれ、現地の農村、工場、商店、大学で働いた経験があります。その後、日米欧の大学で学習・研究の日々を送り、日本、中国、台湾、韓国、東南アジアを中心とした世界の市場・企業で現地調査に励みました。長年の調査に基づいて多数の研究論文や著書を公表しています。最近では、中国市場におけるEC変化と企業のIoT動向について研究しています。経営学部の講義ではアジア経営論、国際経営論等を担当しています。 趣味はヨガ、水泳、太極拳です。メールアドレス：chenjin@ba.ritsumei.ac.jp		
1. 専門演習テーマ アジア・中国市場における企業の開拓戦略		
2. 専門演習の研究内容 アジア市場は今まさに世界企業競争の主戦場になりつつあり、アジア企業は世界市場の主役になっています。昨今、日系企業も大手企業だけでなく、中小企業もアジア市場進出を加速させています。また、製造業に限らず、サービス業の企業も多数進出しています。そのため、多くの日本人学生や日本で学ぶ各国の留学生は卒業後、企業に就職したのちアジア諸国に派遣され、新興国市場を開拓する仕事に直面しています。 本演習では、アジアの市場変化と企業戦略について理解した上で、学生自身がテーマを選定し、資料収集や現地調査を通じてアジアのビジネスについて洞察を深めることを主眼とします。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 日本の学生とアジアからの留学生に半数ずつ参加してもらい、ビジネス環境を把握するためのアジア社会文化比較、アジア経済、企業経営を議論するゼミを目指しますので、アジア諸国からの留学生、アジア留学経験のある日本人学生、アジアのビジネスに関心がある学生の皆さんを歓迎します。 3回生前期：基本文献の輪読とその内容についてのディスカッションを中心にゼミを進めます。内容は、アジアにおける市場構造と企業経営の特質について、特にアジア市場の変化やアジア諸国企業の経営活動、および日本企業のアジア市場展開について、基本的な研究枠組を取り上げる予定です。その上で、後期のグループ研究に向けて課題を設定し、事前の学習や資料収集を進めます。 3回生の後期：グループごとにテーマを設定し、研究を行います。最終的に、3回生ゼミナール大会に向けて論文を執筆し、発表準備を進めていきます。 4回生：各ゼミ生の卒業論文の中間報告、卒業論文の作成を指導していきます。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 陳晋（2014）『アジア経営論—ダイナミックな市場環境と企業戦略』、ミネルヴァ書房。 渡辺利夫（2009）『アジア経済読本』（第4版）、東洋経済新報社。 野中郁次郎・徐方啓・金顕哲（2013）『アジア最強の経営を考える—世界を席巻する日中韓企業の戦い方』ダイヤモンド社。 その他、適当な論文を探して、輪読してもらいたいと思います。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 国際経済論、国際経営論、アジア経済論、アジア経営論、国際貿易論、中国経済論、日中ビジネスなどの専門科目やアジア諸国の言語に関連する科目は、積極的に履修してください。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 学習の意欲を重視します。特に「アジア・中国での企業戦略」にどの程度興味があるか、いままでどのように注目し、これからどのように勉強していくかを評価します。		

PHOTO 	教員名 中村 志保	クラス番号 04
教員紹介 福岡県出身です。大学時代、マンチェスター大学の語学研修に参加し、その後、ニューヨーク州立大学に留学しました。大学卒業後は、神戸大学経営学研究科で学位を取得し、高松と福岡の大学に3年間ずつ在職し、2010年4月より本学経営学部にて赴任しました。この間、カナダのビクトリア大学にて在外研究を行い、帰国後、出産。現在一児の母です。性格は前向きな方です。よく言えば自分らしさがあり、悪く言えば頑固なところがあります。目上の先生に「素直さと誠実さは宝だね」と言われたことは嬉しかったです。幼い頃から九州の山に登っていたので、自然が大好きです。その他、テニス、ヨガ、シュノーケリングをします。		
1. 専門演習テーマ 海外進出日本企業の国際人的資源管理 - グローバル人材の育成 -		
2. 専門演習の研究内容 国際人的資源管理って何ですか？とよく学生に尋ねられます。ヨドバシなど家電量販店へ行くと様々な商品が並んでいます。パナソニック、シャープ、キヤノン、富士通など実際に商品を手にとってみると、Made in Chinaなどの表示があります。なぜ、日本メーカーは中国で生産しているのでしょうか？ヒトを中心に考えてみると海外でモノを生産したり、サービスを提供する日本企業には日本国内の従業員、現地の従業員など国籍の異なる人たちが存在します。日本から中国へ、また、中国子会社の社員がシンガポールへ出向することもあるかもしれません。日本企業でありながら、多国籍の従業員をマネジメントするとはどういうことなのでしょうか？評価は？報酬は？日本式でしょうか？欧米式でしょうか？それとも、中国式？海外派遣者のキャリアはどのように形成されるのでしょうか？海外では離職率が日本に比べて高いと言われますが、どうやって優秀な従業員たちを雇用し続けることが出来るのでしょうか？このように国境を越えたヒトのマネジメントについて学ぶことが国際人的資源管理です。 近年、日本企業の海外進出はますます拡大化しています。日本企業はグローバル人材をどう捉えるのか、また彼らをどう育成していくのかなどは、近年、新たな課題になっています。このテーマを卒論にしていると、就活でよく質問されます。企業、特に人事部の方々は現在、この問題にまさに直面しているからです。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 多くの学生が就職活動に不安を抱えています。将来やりたいことが分からない、企業は皆さんのこういったところを評価するのか、など学生の疑問は続きます。その不安を解消すべく、多くの学生は資格取得を目指します。企業は皆さんの資格欄を見て、採用を決めているのでしょうか？私はそうは思いません。礼儀作法、素直さ、笑顔、仲間とうまく協働出来るかといった人間性、それらに加えて、論理的に考える能力があるかということの評価されます。前半の人間性はなんとか取り繕うことが出来ても、論理的思考を身に着けることは簡単ではないでしょう。このゼミでは2年間を通じて、一つの現象について考え、論理的にそれを説明し、文章表現できる力を身に着けることを目標とします。まずは、専門的な知識を身につけてもらうため、専門書の輪読を進めます。その後、グループでテーマの選択、研究報告、ディスカッションを行いながら、論文の執筆を進めます。その成果報告として、学内外のゼミナール大会へ出場することもあります。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 中村志保「第15章海外派遣者」奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著（2010）『入門人的資源管理（第2版）』中央経済社、所収。 中村志保「第15章グローバル人材」上林憲雄・平野光俊・森田雅也編著（2014）『現代人的資源管理』中央経済社、所収。 中村志保「第13章グローバル人材」「第14章グローバル人材の育成」原田順子・奥林康司編著（2014）『人的資源管理14』放送大学教育振興会、所収。 中村志保「補章日本企業の国際人的資源管理」関口倫紀・竹内規彦・井口知栄（2015）『国際人的資源管理』中央経済社、所収、近刊。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ゼミ生は、毎年春休みに「とびきり体験」という課題が与えられます。過去には、ヒッチハイクで広島へ、青春18切符で鹿児島へ、自分のルーツを辿る旅、アメリカ・フィリピン・中国旅行体験記、琵琶湖を自転車やバイクで一周、デザイナーの夢を追う、などさまざまな体験談が報告されました。色々な経験を増やして下さい。人との出会いも人生を豊かにします。自然からも学んでください。多くの経験から人間性をもっと豊かに、そしてそれを一つでも人に語ることが出来るようになって下さい。 ゼミでは卒業しても付き合える、そんな仲間を是非作って欲しいです。論理的思考は簡単に身につかないからこそ、指導は厳しくなります。卒業論文で苦勞することもあるかもしれませんが、苦楽を共にした後のゼミ生たちの絆はとても強いものになっている気がします。 ゼミでは遊びと学びの時間をはっきりと区別しています。遊びの時は思いっきり楽しみますが、学びの時は真剣です。ゼミの課題や活動に真面目に取り組んでくれる学生を募集します。やむを得ない事情がある場合を除いて、ゼミ活動を優先する学生を期待しています（課題に真剣に取り組んでほしいため⇒自己の成長につながる）。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 現在、育休中のため、今年は面談を実施出来ません。課題レポートを参考にします。素直で真面目な人を希望しています。希望者が多い場合は、GPAを参考にします。 育休中のため、現3回生ゼミは担当していませんが、4回生ゼミは戎谷先生に引継いでいます。戎谷ゼミのオープンゼミに参加し、ぜひ先輩方にゼミの雰囲気などを聞いてみて下さい。ゼミ説明会を開催予定ですが、赤ちゃんがいるため1日のみの設定になりそうです。時間が合えば、ぜひ参加して下さい。その他、現3回生が1回生の時に基礎演習を、2回生の時に国際経営論を担当していました。知り合いの先輩がいたら、授業の雰囲気等を尋ねてみて下さい。		

PHOTO	教員名	クラス番号
	E. ベルント	05
教員紹介 1960年ドイツ・ベルリンの生まれ・育ち。ベルリン・フンボルト大学で社会科学博士号を取得。旧東独五輪候補選手（水泳）等のスポーツ・軍隊（戦車師団偵察部隊少尉）・政治（旧東独総理府外交安保局付研究員）・マスコミ（朝日新聞社ベルリン支局嘱託）にわたり、1991年～1994年の野村総合研究所研究員、1994年以降、立命館大学経営学部で企業文化論や国際経営事情等を担当、1997年以降、ダイムラーの未来研究グループとの共同研究を展開。エアバス社とシーメンス社との研究交流もあり。福島原発事故を受けて、エネルギー問題と脱原発の実現の研究をもしている。<enno1014@ba.ritsumei.ac.jp>		
1. 専門演習テーマ 不確実性に対応して、「x」の未来物語の脚本を多元的に描く ーシナリオ方法を実践的に習得する試みー		
2. 専門演習の研究内容 世の中は、複雑で不確実で先が見えない。あまり将来を考えても、不安で、どうなるか分からないから、今を大事にしようとする志向が強くなって当然だ。個人生活なら、それは通用するかもしれない。しかし、企業経営の場合は、それでいいか。もちろん、臨機応変で企業も一定期間生存するだろう。しかし、結局、自らの特徴がなく、状況と他者に振り回されて、コスト削減の悪循環に陥り易くなってしまふ。そうならないように、どうすればいいか。本来なら、経営とは、確実に予めわかることをしたり、させたりすること、つまり、現状を維持し、その改善を標榜する管理（＝決まっている何かを如何にするか）だけではない。利益を生み出すために、どの様な仕組み（繋がり）で資源をどこに投入するか（何をするか）を決めることである。しかし、その結果は、予め知ることが出来ず、決定と行動をしてその大分後になってからしか判明されない。つまり、決定としての経営は、決定・行動・結果が乖離し異なり、そのリスクを取り、あるいは、それに備え動くかを判断・決断することだ。そのために、今決めたことがその後どの様なことに影響されるかを考えなければならない。それは、出発の状況から主人公が動き出す際、他のプレイヤーと多数の要素が絡み、新たな状況が誕生する展開を想像することだ。絡み方によって発生する状況が異なり、自らがどの様に動けるかも見えてくる。そのように、未来物語の脚本を複数で多元的に描くのは、シナリオ方法だ。当ゼミでは、まず、海外の事業会社・経営コンサル・公的機関等でよく使用されるそのアプローチの歴史・理論を学び、自らの「x」というテーマを考え選び、その未来について複数の脚本（＝シナリオ）を作る。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 学生が（脚本家＋演出家＋視聴者＝）複数の役目を遂行し、自ら、そのための脚本を作りその演出にも取り組む。流れは、まず、Ⅰ/Ⅱで、下記の参考文献を熟読した上で、一定の予備知識を身につける。そして、チームがで「x」というテーマ案を考え、その未来に関して複数の仮説を立て、不確実性がどこに存在するかを説明する。その未来について、複数の脚本（シナリオ）を作る。Ⅲ/Ⅳでは、個人で「x」を考え決めて、その未来についてシナリオを作り、それを発表した上で、必ず、卒論を作成する。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 英語版で提示するが、日本語版もあるし、後者の使用も可能であり、線引きの文献を夏休みで優先的に熟読してもらいたい。 (a) Schwartz, P. (1991): <u>The Art of the Long View</u> , Doubleday (b) Ringland, G. (2002): <u>Scenarios in Business</u> , Wiley (c) Van der Heijden, K. (1997): <u>Scenarios -The Art of Strategic Conversation</u> , Wiley (d) Van der Heijden, K. et al. (2003): <u>The Sixth Sense - Accelerating Organizational Learning with Scenarios</u> , Wiley (e) Wack, P. (1985): <u>Scenarios —uncharted waters ahead</u> , in: <u>Harvard Business Review</u> , September-October, pp. 73-90 (f) De Geus, A. (1988): <u>Planning as Learning</u> , in: <u>Harvard Business Review</u> , March-April, pp. 70-74 それ以外、シナリオ自体の資料に加え、教員と先輩が作成した資料をWEBCTに搭載して、活用してもらいたい。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など *書籍文献を情報源として、既存の研究・理論を能動的に修得・使用すること。 *ゼミ（＝書面＋口頭の議論・報告）は、日本語で行うが、英語で書かれている文献の活用にも挑戦していただくこと。 *物事の関連性と発展の可能性を想像する勇気を持ち、「x」の未来について複数の脚本を面白く作ってみること。 *現状・常識を疑問（符付き）で考えて、第三者にも説明できる論理に基づいて、仮説を立て、その検証・探求に挑戦していただくこと。 *他者がやることだけではなく他者がやらないことの苦勞に耐えそれで得られる達成感と快感（自尊）を獲得していただくこと。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） まず、当ゼミでは、与えられたことを（言われた通りに）遂行し、無難な現状確認と常識再現をしない。シナリオ方法について学ぶよりも、自ら考え調べ語り合うチームワークで、シナリオ（＝未来の物語を複数で多元的に）を創る。従って、上述した貴方への望みに加え、チームプレーと創ることへの志向が大事だ。更に、それなりの時間と情熱を投入する必要があるが、成績と取得済みの単位数に関しては、ある程度の余裕が必要だろう。		

PHOTO	教員名	クラス番号
	もり まさき 守 政毅	06
教員紹介 専門分野は国際経営論で、特に香港、東南アジアの華人企業の競争力構築や、華人ネットワークを通じた社会関係資本の形成について研究しています。また、アジア市場をめぐる、日系企業や地場企業の事業展開にも研究関心を持ち、学生の指導に当たっています。 加えて、中国（北京）、香港、カナダ（ビクトリア）に留学経験があり、それが私自身の成長に繋がり、人生を豊かにする原点となりました。そのため、留学プログラムの開発や、短期留学や海外企業調査の引率に携わるなど、海外で学ぶ機会作りにも力を入れてきました。 福岡出身で、旅行と水泳を趣味とする、育児奮闘中のパパです。		
1. 専門演習テーマ アジア新興国市場をめぐる企業の国際経営戦略		
2. 専門演習の研究内容 ○ 専門演習の研究内容： アジアの新興国は、先進国企業の生産地として成長してきましたが、近年人々の所得向上に伴い、消費市場として着目されています。日本などの先進国企業は、市場ニーズに合わせた経営戦略の構築を模索しています。他方、アジアの地場企業は、市場ニーズへの対応に競争力を持つ経営戦略を構築しつつあります。 そこで、本専門演習では、 <u>アジア新興国（主に中国を含む東アジア、東南アジア）の市場をめくり、日系企業と地場企業との間で新たな競争が繰り広げられている点に着目し、最新の国際経営の理論を用いて企業の国際経営戦略を実証的に分析します。</u> ○ 守ゼミの特徴： 守ゼミは、ゼミ生が和気あいあいと仲良く、勉強と遊びのON/OFFがはっきりしているのが特徴です。アジア・欧米で留学やインターンシップに参加したり、課外活動に取り組んだりする積極的なゼミ生も多くいます。 正課 では、予習を前提とした発表と討論の機会を多くし、リサーチ、プレゼン、論理的思考の力が付くよう工夫しています。また、アジアのビジネス現場を実体験できるよう、企業訪問を含む短期留学への参加を基本としています。 課外 では、関係作りのための交流企画（ゼミ対抗スポーツ大会や懇親会）、大学からの助成を活用した国内外でのフィールドワーク（工場見学や企業調査）、就活準備のための社会人OBOGを招聘したキャリアセミナーを行っています。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール		
3回生春 semester	専門演習Ⅰ：「アジアの社会経済情勢と企業の国際経営戦略のケース・スタディー」＜基礎学習＞ アジア新興国の社会経済情勢について学習したのち、アジアの中間所得層（MOP）と低所得者層（BOP）の市場をめぐる企業の国際経営戦略について、理論を用いた企業ケースの分析を行います。	
夏季休暇	BSAⅠ（中国・蘇州大学・4週間6単位）：企業訪問調査など ＜フィールド調査＞	
3回生秋 semester	専門演習Ⅱ：「アジア新興国市場をめぐる企業の国際経営戦略に関する研究」＜グループ研究＞ アジア新興国市場をめぐる、日系企業やアジア地場企業との競争や、アジアで競争力を持つ企業の国際経営戦略についてグループで研究を行い、学内ゼミナール大会（12月）で発表します。 基本的には、BSAⅠ（中国）での日系企業や中国企業への訪問調査をベースに研究を行います。	
4回生	専門演習Ⅲ・Ⅳ：「卒業研究」＜個人研究＞ アジア・ビジネスについて、国際経営戦略の分野で自らテーマを設定し、卒業研究を行います。	
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 使用テキストは、ゼミ生と話し合って決めたいと思いますが、下記の文献を推薦します。 ・末廣昭（2014）『新興アジア経済論——キャッチアップを超えて』岩波書店。 ・天野論文・新宅純二郎ら編著（2015）『新興国市場戦略論—拡大する中間層市場へ・日本企業の戦略—』有斐閣。 ・林倬史（2016）『新興国市場の特質と新たなBOP戦略：開発経営学を目指して』文眞堂。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 守ゼミでは、 <u>国際経営学科／経営学科の所属や国籍を問わず、アジア・ビジネスに強い関心を持ち、海外留学に積極的で、「探究心、やる気、根気」がある学生を広く歓迎します。</u> また、1セメスター以上の中長期留学を推奨しており、学生とよく相談しながら留学とゼミとの両立を図りたいと考えています。 2018年度に中長期留学の予定がない方は、2018年夏季のBSAⅠ（中国・蘇州大学）へ基本的に参加ください。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） <u>教員との面談(Web予約制)を、応募前に必ず受けてください。</u> 面談と課題レポートに基づいて、アジア・ビジネスへの関心度、ゼミや留学を含めた学修・活動計画、ゼミ活動に耐え得る基礎学力などの観点で総合的に評価します。 2018年のBSAⅠ（中国）に参加する方、または1セメスター以上海外に留学する（した）方は、考慮します。		

PHOTO 	教員名 ラウパッハ スミヤ ヨーク RAUPACH-SUMIYA, Joerg	クラス番号 07
教員紹介 ドイツ出身。1990年に来日。外資系経営コンサルティング会社、外資系産業機械メーカーの役員、それで2000年から滋賀県に本社を置くNECショット株式会社の代表取締役社長として企業人のキャリアを経て、2013年4月から立命館大学経営学部教授に赴任。国際経営、国際産業論を担当。世界のエネルギー業界、特に再生可能エネルギー分野について研究。メールは raupach@fc.ritsumeai.ac.jp		
1. 専門演習テーマ 「デジタル革命」におけるビジネス戦略とマネジメント		
2. 専門演習の研究内容 自動運転、ドローン、IoT (Internet-of-Things), AI (Artificial Intelligence) など代表されているようにデジタル技術は止まらぬ発展を見せている。現在、第四産業革命が起こっているとまで言われている。それによって新規産業が生まれ、新しいビジネス・モデルが創出され、経済や社会の構造まで変わっていくと予測されている。私のゼミでこの「デジタル革命」は企業のビジネス戦略やマネジメントにどのような影響与えるのかについて多面的に考えていきたい。と同時に、自動車産業、エレクトロニクス産業、エネルギー産業などのような業界の産業構造がどのように変わっていくのだろうか、McKinsey, Boston Consulting Group, Roland Bergerなどの世界トップの経営コンサルティング会社の調査報告書やHarvard Business Reviewなどの学術論文を参考しながら世界のビジネス動向を考察していきたい。 授業でのディスカッション等は基本的に日本語で行うが、参考文献は英語のものもよく使うので、英語に積極的にチャレンジしてほしい。私のゼミは参加型のものであり、ゼミ生の関心分野を配慮しながらに設計していく。できるだけ実践的な研究を進めていきたい。そのためのキーワードはゼミ生一人一人の積極的で、且つ主体的な活躍である。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 三回生前期の前半ではビジネス戦略の基礎知識を学習し、デジタル革命が経営戦略にもたらす影響について考えていく。後半からはJ.リフキンが書いた「限界費用ゼロ社会—モノのインターネット>と共有型経済の台頭」(Zero Marginal Cost Society)という本を読んで、指定されたテーマについて小グループで調査研究し、プレゼンテーションやグループ・ディスカッションを行う。三回生後期では、エネルギー産業、自動車産業などの幾つかの産業や企業の実例を取り上げながら、デジタル革命が経営にもたらす影響についてポスター・セッションやグループ・ディスカッションを通じて論じ、経営課題や新ビジネス・モデルの可能性等を探っていく。四回生ではゼミ生は個別に関心のあるテーマ・分野について、卒業論文を意識しながら、研究を進めていく。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど ・ジェレミー・リフキン、限界費用ゼロ社会—モノのインターネット>と共有型経済の台頭」、NHK出版、2015年 ・McKinsey & Company, McKinsey Quarterly http://www.mckinsey.com/quarterly/overview ・Boston Consulting Group, BCG Perspectives https://www.bcgperspectives.com/		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ・3回生以上に履修することが望ましいのは、経営戦略、国際経営、経営組織論の基礎的な教科書 ・英語の学術論文や本を積極的に挑戦していく ・経営・経済・社会・技術革新などを多面的に、広く考えていきたい、主体的に自習すること ・色々な目新しい課題に関する文献読書に挑戦すること ・本演習ではセメスター毎に提出してもらう論文、ゼミ活動の参画状況などを対象に、総合的に成績評価を行う。 ・失敗や人との対立を恐れず、積極的に自分の考えを表現し、前向きなチームワークを通じてゼミ活動に参画すること ・ゼミは全出席が原則である		
6. 選考の際の評価ポイント (GPA、取得単位数など) ・基本的には本演習に参加する志望理由や課題レポートの内容は選考の対象である。 ・英語に対する学習姿勢 ・希望者が多い場合には、GPAや取得単位数も考慮する。		

PHOTO 	教員名 池田 伸	クラス番号 08
教員紹介 いまの3年生ゼミでは下のテーマの副題に沿って研究を進めつつあり（4年生は卒論と進路選択）、卒業生のみなさんにも随時応援してもらっています。 最近の一言：學ばでもあるべくあら生れながら聖にてませどそれなほしまなぶ（宗武）。禅とモータサイクル修理を趣味にしたいと思っています（したことないので）。		
1. 専門演習テーマ 新領域のマーケティング： クリエイティブ産業，デジタル化，ビジネスモデル		
2. 専門演習の研究内容 どの企業においても顧客とコミュニケーションし便益のパッケージを提供しその代価を受領するマーケティングの機能は不可欠です。しかし、現代世界の新しい状況に対応するためにマーケティングも新たな領域・発想へと進化する必要があります。ゼミでは、挑戦すべき課題として、クリエイティブ（コンテンツ）産業、グローバルな環境・フェアトレードや地域問題などについて、歴史的相対的（異）文化的な観点や実態調査に基づいてそれらにかかわるマーケティングやその背景にあるビジネスモデルを取上げ、収益とともに平和で自由な社会の問題認識・解決の理論となりうる「共通価値」の可能性を追究したいと考えています。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール だいたい以下のタイムラインで進めますが、具体的には状況に応じてメンバーで調整します。 Ⅰ. ゼミというコミュニティの構築、基本的な文献について輪読・プレゼンテーション・検討（下の4.）、調査法・データ処理など基礎的知識・スキルの修得、グループ・テーマの検討（夏期に見学・旅行） Ⅱ. グループ・テーマの決定・研究計画の策定・文献調査・調査、ゼミ論文の作成、講評会・合同ゼミなどでの発表、論集の編集発行 Ⅲ. 上記の成果を元に卒論に向けたテーマ・研究計画の決定、調査（夏期に見学・旅行）、 Ⅳ. 「卒業研究」とも卒業論文の作成・提出、発表会・論集の編集刊行		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 昨年度は下記（から抜粋した）論文を前期に輪読しました。今年度もメンバーと検討して決めようと思います。 マーク・ジョンソン、クレイトン・クリステンセン、ヘニング・カガーマン、(2009). 「ビジネスモデル・イノベーションの原則」『DAIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』, 2009年4月号. オリヴァー・ガスマン, カロリン・フランケンバーガー, ミハエラ・チック (2016), 渡邊・森田 (訳)『ビジネスモデル・ナビゲーター』翔泳社. 石井淳蔵, 石原武政 (編著) (1999)『マーケティング・ダイアログ：意味の場としての市場』白桃書房. 土井宏文 (編著) (2006)『コンテンツビジネス法務・財務/実務論：デジタルハリウッド大学院講義録』九天社.		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ゼミというラーニングコミュニティの構築に積極的に参加してください。正課はもちろん、課外でも調査や旅行など、さまざまな体験を通じて互いに可能性を上げましょう。主体は自分（たち）です。さまざまな意見の中から自主的自律的に考え、よりよく計画し行動できることが重要です。多様性を歓迎します。留学で出入りが多くなるとは思いますが行きやすく戻りやすいようにします。 会計系専門職、国際的な進路や大学院進学を考えているひととぜひ志望してください。その知識や志向性をゼミで活かしてください。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 面談や志望理由書では自らの個性や訴求点をわかるようにしてください。 積極的に面談に来るようにしてください。		

PHOTO 	教員名 石崎 祥之	クラス番号 09
教員紹介 経営学部・大学院を修了し、国際連合地位開発センター研究員（環境・観光開発）を2年務めた後、本学の教員となり、はや20年です。ゼミも20期近くなり、OB・OGの数も300名をはるかに超えています。毎年1回、ゼミの公式OB会を開催し、100名近い人数（家族を含む）が集まり、これが就職活動支援ともなっています。したがって、ゼミを学生生活の中心と捉え、卒業後もゼミのつながりを持ち続けたいという諸君の応募を期待しています。		
1. 専門演習テーマ 国際観光マーケティングの諸問題		
2. 専門演習の研究内容 近年の訪日外国人客の激増や格安航空会社（LCC）の急速な発達に見られるように、観光は今後のわが国の経済を支える柱になりうると期待されている。その一方で、観光、とりわけ観光マーケティングを課題として取り組んでいる大学・ゼミの数はまだまだ少数である。本ゼミでは、旅行代理店、航空産業、ホテル等観光を取り巻く各セクターのマーケティング戦略を中心に研究を進めてゆくことによって、成長するこの産業の中核を担う人材育成を行うことを目的とする。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰでは、入門編として、プレゼンの仕方やディベートなどゼミ運営にあたっての基礎力をつけることを目標とする。この後Ⅱにかけて、テキストを輪読し、観光に関する基礎的知識を身につけてゆく。Ⅲでは、これらを基にして個人の研究テーマを設定し、各人が興味を持つテーマについて深く掘り下げてゆく。最終的にⅣで卒業論文としてまとめ、ゼミの学習の集大成としたい。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど ゼミで使用するテキストについてはゼミ生全員で相談して決めることとするが、さしあたって以下のようなものを入門書としてあげておく。 デービッド・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済、2015年。（入門書として） 寺島実郎『新・観光立国論』NHK出版、2015年。 P・コトラ著、平林訳『コトラのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング第3版』ピアソン・エデュケーション、2003年。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ゼミのテーマが観光マーケティングであることから、マーケティング関連の科目は広く受講しておくことが望ましい。また関連分野としてサービスや交通等の分野を履修しておくことはゼミの学習に役立つ。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 選考にあたっては志望理由書を重視する。この理由書の中に、①なぜこのゼミを志望したのか②このゼミに何を期待するのか③ゼミにおいて自分が貢献しうると考えられる役割 などが1600字以内で具体的に記述されており、ゼミを学生生活の中心におこうとする姿勢が現れているものを優先採用とする。なお、志望理由書が同等である場合には成績優秀者を優先採用とする。		

PHOTO 	教員名 菊盛 真衣	クラス番号 10															
教員紹介 私が大学教員を志したのは、「ゼミ」がきっかけでした。寝食を忘れるほど熱中した仲間との研究活動、苦勞して共著論文を完成させたときの喜び、自分にはない視点の意見や考え方に会える日々を送り続けたいと思い、大学教員という道を選びました。 そんな私のもとに、今年度多様なキャラクターを持つ第1期生20名が集ってくれました。彼らはこのゼミで切磋琢磨しながら、互いの成長を促し合っています。私や第1期生とともに、ゼミを作り、盛り上げ、このゼミと共に成長できる方を大いに歓迎します。																	
1. 専門演習テーマ マーケティングと消費者行動における理論と実証																	
2. 専門演習の研究内容 企業のマーケティング活動やそれに影響を受ける消費者行動が研究対象になります。マーケティング論は、売手である企業と買手である消費者とのモノ・カネの交換の結果として生じる社会現象を対象にしています。具体的には「なぜ消費者はこのブランドを選択したのか」、「なぜこの広告に惹きつけられるのか」、「なぜこのサービスに満足したのか」といった問いに対して解答を与えるような理論の構築を目指しています。 当ゼミでは、既存の理論に残された課題を指摘し、新たなアイデアを仮説として論理的に導出した上で、その仮説を現実に照らし合わせて実証することが重視されます。																	
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 2年間の大まかなスケジュールは以下のとおりです。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">学期・科目</th> <th style="width: 60%;">活動内容</th> <th style="width: 25%;">活動成果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回生 春学期</td> <td>基礎的な文献の講読、ディベートやケースメソッドを通じたプレゼンテーション、統計ソフトを使った多変量解析技法の実習</td> <td>個人レポートの作成</td> </tr> <tr> <td>3回生 秋学期</td> <td>共同研究プロジェクト</td> <td>ゼミ共著論文の執筆</td> </tr> <tr> <td>4回生 春学期</td> <td>卒業論文のテーマ設定と中間報告</td> <td>研究計画書の作成</td> </tr> <tr> <td>4回生 秋学期</td> <td>卒業論文の執筆と発表</td> <td>卒業論文の執筆</td> </tr> </tbody> </table> 3回生春学期は、マーケティングや消費者行動の基礎知識や統計解析の手法を身につける、いわばインプット期間に当たります。その成果を活かして、3回生秋学期以降の共同研究プロジェクトや卒業論文の執筆活動に臨みます。共著論文や卒業論文は、日本語に限らず英語での執筆も歓迎します。また、入会者の希望に応じて、ゼミでの研究成果を積極的に学内・学外（国内・海外）に発信する機会を提供しています。			学期・科目	活動内容	活動成果	3回生 春学期	基礎的な文献の講読、ディベートやケースメソッドを通じたプレゼンテーション、統計ソフトを使った多変量解析技法の実習	個人レポートの作成	3回生 秋学期	共同研究プロジェクト	ゼミ共著論文の執筆	4回生 春学期	卒業論文のテーマ設定と中間報告	研究計画書の作成	4回生 秋学期	卒業論文の執筆と発表	卒業論文の執筆
学期・科目	活動内容	活動成果															
3回生 春学期	基礎的な文献の講読、ディベートやケースメソッドを通じたプレゼンテーション、統計ソフトを使った多変量解析技法の実習	個人レポートの作成															
3回生 秋学期	共同研究プロジェクト	ゼミ共著論文の執筆															
4回生 春学期	卒業論文のテーマ設定と中間報告	研究計画書の作成															
4回生 秋学期	卒業論文の執筆と発表	卒業論文の執筆															
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 【参考にしてほしい文献】 Kotler, Philip and Kevin L. Keller (2014),『コトラー & ケラーのマーケティング・マネジメント (第12版)』, 月谷真紀訳, 丸善出版。／田中洋 (2008),『消費者行動論体系』, 中央経済社。 これら以外にもマーケティング・消費者行動研究が活発に行なわれている米国の著作や学術雑誌を参照することを奨めます。同時に、日本語文献や邦訳された文献も活用するとよいでしょう。 【ゼミについてもっと知りたいとき】 ゼミに関する様々な情報（ゼミ活動の様子や応募のQ&A等）は、当ゼミのウェブサイトで豊富に紹介しています。ぜひアクセスしてください。菊盛ゼミホームページのQRコード→→ 																	
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 【求める人材】 ・マーケティング・消費者行動に関心を持ち、探究心を持って研究に臨む人 ・何事も楽しむことを忘れずに、情熱を燃やすことのできる人 ・きらりと光る個性を持ち、それを存分にゼミで発揮できる人 無断欠席や遅刻をしないことは当然ですが、まだ新しいこのゼミの礎を築こうとする気概にあふれ、将来迎える多くの後輩のリーダーとなる人材を歓迎します。「マーケティング論」を履修していることを望みます。																	
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 選考では、応募者のレポート課題と面接の結果を総合的に評価します。応募に際してわからない事があれば、お気軽に次のアドレスまで質問・相談を寄せてください。【菊盛ゼミアドレス：kikusemi1@gmail.com】																	

PHOTO	教員名	クラス番号
	木下 明浩	11
教員紹介 2016年度1年間、スコットランドのエジンバラにて在外研究をしていました。小売事業ブランドの発展プロセスをさまざまな社会的諸関係への「埋め込み」(Embeddedness)の視点からとらえる研究をしました。エジンバラは、夏涼しく通常は日中も20度以下で、歴史のある街、ハイキングを楽しみました。趣味は、登山・ハイキングとミュージカルで、つい最近劇団四季の「ノートルダムの鐘」(ディズニー)を観劇しました。 ゼミは、学生どうしが興味ある研究を素材として、コミュニケーション力を高めるまたとなり機会です。楽しい居場所になるように積極的に発言し行動しましょう。メールアドレス：kinosita@ba.ritsume.ac.jp		
1. 専門演習テーマ マーケティングの理論と実践：ブランディングを素材として		
2. 専門演習の研究内容 私たちの社会は、営利企業にとどまらず地方自治体や教育機関など非営利組織も含めて、あらゆる組織がマーケティングの考え方を取り入れる必要に迫られている。今日、ブランディング、e-Commerce、オープン・イノベーション、サービス・イノベーション、埋め込み、消費経験など興味深いマーケティングのテーマが議論されている。3回生では、ブランディングの理論と実践をグループでの研究材料とする予定である。授業では毎回ゼミ生全員に最低1回は発言してもらう。 著作例。 木下明浩 (2011)『アパレル産業のマーケティング史 ブランド構築と小売機能の包摂』同文館出版。 木下明浩 (2016)「小売ブランド研究に関する一考察」『立命館経営学』第54巻第4号、89-111頁。 木下明浩 (2016)「小売事業ブランドの生成・発展—ユニクロを素材として—」『拓殖大学経営管理研究』106号、243-271頁。 Kinoshita, A. (2017), How is a retail business brand embedded in social structures, networks, and territories? A historical case of Uniqlo, <i>Distribution Studies</i> , 41 (forthcoming).		
3. 専門演習 I～IVの運営方法・スケジュール 3回生前期：グループによる発表・討論とする。素材は、ブランディングを中心としたマーケティング・流通分野の論文や事例を取り扱う。必要に応じて、専門用語を調べて、授業で報告しあう。発表者以外は毎回A4用紙800字程度で内容の要約および感想をまとめて提出する。3回生時に、企業の実務家による講義を1回行なう。2017年度は、前期に行なっている。 3回生後期：ブランディングにかんするグループ論文ないしは企画を作成し、学外および学内の発表大会に参加する。順番にグループの研究報告をしてもらう。最後には、グループ論文ないしは企画で各自が執筆した内容をふまえ、個人論文(本文6,000字)を提出してもらう。 4回生前期：卒業論文(4回生)に向けての経過のレジюмеを作成し、ゼミで発表する。 4回生後期：卒業論文作成に向けて、個人報告と討論を行なう。最終的には卒業論文を作成し、論文集にまとめる。 お互いの発表について議論し楽しみながら仕上げていき、論理的思考力、構想力を養う。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 使用教材は、オリエンテーション時にゼミ生と相談する。 木下明浩『アパレル産業のマーケティング史：ブランド構築と小売機能の包摂』同文館出版、2011年。 アーカー著・阿久津聡訳『ブランド論—無形の差別化を作る20の基本原則』ダイヤモンド社、2014年。 矢作敏行編著『日本の優秀小売企業の底力』日本経済新聞社、2011年。 柳井正『一勝九敗』新潮文庫、2006年。 一橋大学イノベーションセンター編『一橋ビジネスレビュー』(大学所蔵)。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ・専門書、教養書などの書物や新聞を読む時間を確保すること。 ・発表者以外は毎回A4用紙800文字の内容要約を課す。必ず授業時に提出すること。 ・授業には遅刻・欠席をしないこと。 ・ゼミ以外の時間を設けてレポート発表、論文作成などに主体的に関与すること。 ・ゼミ行事には参加すること。 ・マーケティングを勉強したい学生、ゼミを通じて積極的に新しいものを生み出していこうとする学生を期待する。 ・3回生配当科目では、ゼミ教員担当の「マーケティング・マネジメント」は履修すること。		
6. 選考の際の評価ポイント (GPA、取得単位数など) 面談 (必須)、ゼミ選択のためのレポート、GPA、取得単位数を総合的に評価する。		

PHOTO 	教員名 金 昌柱 (Kim, Changju)	クラス番号 12
教員紹介 韓国生まれ。最近では研究成果の国際発信に挑戦しています。喜怒哀楽を感じながら、韓国で学部を卒業し、イギリスで修士課程を終え、日本で博士学位を取得しました。若い人生を振り返ってみると、あの時は若かったからそんなことができたんじゃない！と自分を励まします。チャレンジしてみないと、何事も起こりません。何年後、皆さんが社会に出て自分のことを振り返ってみる際に、あの金ゼミは熱くて楽しかったなあ～と覚えてくれるような2年間の思い出をつくりたいです。		
1. 専門演習テーマ 企業の経営課題をマーケティングから学ぼう		
2. 専門演習の研究内容 金ゼミでは主に、データ分析スキルに基づいたマーケティング戦略を学びます。その学習成果を試す機会として、Mラボ（課題解決ラボ、神戸新聞社主催）という学外マーケティング大会に取り組みます。この大会では、中小企業と各参加ゼミがマッチングされ、各企業の経営課題の解決に挑戦します。過去の経験として2013年同大会に参加し、(株) 伍魚福（神戸市・おつまみ）のご協力の下、初挑戦で審査員特別賞という快挙を成し遂げました。2014年は、(株) ファミリア（神戸市・子供服）に対して認知度アップのために、贈答品にプレゼント情報などを入れた「ファミくる」という提案を行い、見事グランプリを獲得しました（詳細はhttp://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201410/0007448883.shtml）。最終的な提案までには、神戸市など関西地域での街頭アンケート調査や、企業との中間報告、テストマーケティングなど様々なステップがありました。ゼミ生にとっては、経営学部やゼミで培った優れた専門知識を活かした実践的な経験を積む貴重な機会になりました。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰ 企業の実践や学外マーケティング大会で使えるマーケティング・リサーチを勉強します。 専門演習Ⅱ 学外マーケティング・プラン大会（Mラボ）に向けたグループワークを進めていきます。 専門演習Ⅲ 「Out of Box Thinking」を実践する企業について報告・議論を行う。 専門演習Ⅳ 卒業論文に向けた報告・議論を行う。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 担当教員の情報や学外大会に関する情報は下記のWebページから閲覧できます。 Mラボ：http://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201410/0007448883.shtml 教員ホームページ：http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/80/0007921/profile.html		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 1) マーケティング課題について積極的な挑戦に取り組みたい生徒 2) せめて1回はゼミメンバーのみんなで登山することができる生徒		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 「※応募に当たっては面談を行いますので、担当教員まで（cjkim777@fc.ritsumei.ac.jp）まで面談日時を相談してください」 選考の評価ポイントは、専門演習において志願者の「熱意」と「夢」を重視します。		

PHOTO 	教員名 近藤 宏一	クラス番号 13
教員紹介 長崎・諫早の生まれ、福岡と京都で育つ。立命の経営学部・大学院経営学研究科出身ですが、学生団体事務局や出版社に勤務経験あり。1997年より経営学部の教員となる。現在の主な研究領域は、地域公共交通（鉄道、バス、タクシーなど）に関する政策とマネジメント、およびオーケストラのマーケティング。趣味は旅行（主に東アジア）と音楽（主にクラシックで、ジャズ、ロックなども）なので、趣味と研究がうまく重なっている（はず）。最近なぜか自分でも驚くほど表情がキツイですが、そんなに怖い人間ではないつもりなので、安心してください。連絡先：kondok@baritsumei.ac.jp		
1. 専門演習テーマ 非営利・公共サービスのマネジメント －交通、文化・芸術、まちづくりを中心に－		
2. 専門演習の研究内容 「サービス」という言葉は日常用語で、「おまけしてもらう」とか「愛想がいい」といった意味にも使われます。ですが、このゼミではそうした表面的なことではなくて、北欧に起源をもつ「サービス・マネジメント」の理論を使いながら、どのようにしてより本質的な「よいサービス」をつくりだすのか、を考えます。特に、交通、文化芸術、まちづくりといった公共性の高い分事業分野は、人間の生活を豊かにするために不可欠なものです。ここに「サービス・マネジメント」の考え方を導入することで、より効果的・効率的な事業のあり方を考えることができます。このように、理論をふまえ、具体的な分野のマネジメントへ応用して考えることで、理論を的確に把握し現実に応用する力をつけることをめざします。 こうした力は、もちろん今後実際に仕事に就いたときに役立つでしょうが、それ以上に、科学的にものを見、考えることの訓練になると考えます。そうした人間の力は、単に仕事の現場で役立つだけでなく、人生をより有意義に生きる力になると私は信じています。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール このゼミは、学生が自分たちでつくるゼミです。ゼミ生のみなさん自身が、2年間で自分たちが学ぶ目標は何なのか、そのためにはどのようにゼミを運営していくのか、を決めていきます。もちろん、先輩の経験も参考になるでしょうし、教員である私も必要に応じて助言をしますが、主体はゼミ生のみなさんにあります。 ですので、2年間のスケジュールも、毎回のゼミの内容や進め方もゼミ生の協議で決め、運営もゼミ生が交替で行います。自分たち自身で企画・運営していくことで、学んだ内容をより強く自分たちのものにすることができると考えています。また、ゼミの運営それ自体からも、さまざまなことを学ぶことができますはずです。 ただし、3回生時に全国・学内のゼミナール大会（例年11～12月開催）に出場することだけは恒例となっています。ゼミナール大会へむけて取り上げたテーマとしては、観光とまちづくり、街おこしと音楽イベント、観光と交通、コンパクトシティ、地域ブランド、ホテル業やブライダル産業などをとりあげてきました。 そして、2年間の学習の最終的な成果として、卒業論文を執筆します。卒論のテーマは、3回生でのグループ研究をふまえたものが望ましいですが、新しいテーマを設定してもかまいません。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど （全員必読）蒲生智哉訳・近藤宏一監訳『北欧型サービス志向のマネジメント』ミネルヴァ書房、2013年。 （なるべく）近藤隆雄『サービス・マーケティング：サービス商品の開発と顧客価値の創造』生産性出版、2010年。 （以下はどれか一つは読んでおく）大木裕子『オーケストラの経営学』東洋経済新報社、2008年。 近藤宏一「地域公共交通のサービス・マネジメント」『立命館経営学』第47巻第4号。 岡田知弘『一人ひとりが輝く地域再生』新日本出版社、2009年。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など (1) 上記のように、学生の主体的な参画なしにはこのゼミは成立しません。単にゼミの時間に参加するだけでなく、予習復習やグループでの活動、そしてゼミの運営に積極的に加わる意思のある学生を求めます。 (2) 「サービス・マーケティング論」、「マーケティング・マネジメント」「非営利組織論」は必ず受講のこと。「交通システム論」「観光システム論」「中小企業論」は、それぞれの関心に応じてどれかは受講すること。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 基本的には、レポートの記述が課題に対して的確であるかどうか、本人の志望理由がこの専門演習の内容と適合しているかどうか、を基準に選考します。GPAや取得単位数による「足切り」は行いませんが、これまでの成績が著しく低い場合には、その原因と今後の対策についての自己分析を行い、レポートに記入してください。		

PHOTO	教員名	クラス番号
	齋藤 雅通	14
教員紹介 専門（科目）分野は、国際マーケティング論です。関連して管理会計論も研究対象にして、国際比較の視点からグローバルなマーケティング展開をしている企業の調査研究を進めています。最近の研究テーマは、①マーケティングの国際比較研究、②アメリカにおける市場志向型利益管理論の発展史の2つです。ヨーロッパ（特にドイツ）とアジア、日本の小売業の比較に関心があります。 鴨川や北白川の疎水などを散歩しながら京都の四季を楽しんでいます。17年度後半は海外研究で、自然や文化の豊かなドイツ・ベルリンで、ゼミの準備と研究に励み、18年3月には帰国します。 メールアドレス： saitoh@ba.ritsumei.ac.jp		
1. 専門演習テーマ マーケティングの国際比較研究 －製品・ブランド戦略を中心に－		
2. 専門演習の研究内容 企業の国際的な競争が激化する中で、マーケティング分野でも、理論と実践をグローバルな視野から研究する必要性と重要性が高まってきている。18年度のゼミの研究内容として、3回生（専門演習Ⅰ・Ⅱ）は、マーケティングの基礎理論と国際マーケティング論の基本を学習し、さらに製品・ブランド戦略の理論を国際比較の視点から検証する。 4回生では、アメリカ、ヨーロッパ、アジア市場におけるマーケティング活動の国際比較研究を行なう。そのことでマーケティングにおけるブランド・製品戦略について、ビジネスおよび社会貢献との関連で、その役割について理解を深めたい。取り扱う業種は、家電、食品、化粧品・医薬品、小売業、サービス業などを予定している。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール ＜Ⅰ＞国際化時代のマーケティング、グローバルマーケティングについて基本的な内容を学習・研究します。レジュメやパワーポイントを使用した発表と活発な議論を重視します。また夏休み（8-9月頃）を利用して、日本企業の国際マーケティングの実情について海外調査を実施します。 ＜Ⅱ＞ブランド戦略を中心に国際マーケティングの理論を検討するとともに、英文のケースを取り上げた研究も含めて具体的な事例（例えばSONY、資生堂、P&Gなど）を取り上げて検討し、発表、ディスカッションを実施します。学内ゼミナール大会に参加し、また各ゼミ生はゼミの研究論文をまとめます。 ＜Ⅲ＞3回生の学びの成果の上に、国際マーケティングの理論の検証と事例研究を行います。 ＜Ⅳ＞マーケティング理論の応用力を高めるために研究を進め、卒業論文の完成に向けてプレゼンやディスカッションを実施します。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキストは未定です。本ゼミは、マーケティングの国際比較と国際マーケティングをメインのテーマとしていますが、マーケティングの基礎理論をしっかり修得することが重要です。その上で、特定分野の国際マーケティングを検討していきます。 P.コトラー『マーケティング・マネジメント』（ピアソン・エデュケーション） M.ポーター『グローバル企業の競争戦略』（ダイヤモンド社） D.A.アーカー『カテゴリー・イノベーション』（電通ブランドクリエーション・センター） 大石芳裕他『グローバル・ブランド管理』（白桃書房） マーケティング具体例は、例えば以下のものが参考となる。 水尾順一『化粧品のブランド史－文明化からグローバルマーケティングへ』（中公新書）		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など マーケティングの研究は、大学内だけでなくコンビニやスーパーマーケットでの買い物など毎日の生活体験や通学途上での街並みや広告の観察など様々な方法で可能です。またマーケティングだけでなく、いろいろな学問分野や生活分野に関心を持つことのできる学生であることを希望します。こうした知的探求のために英語などの外国語運用力が、国際マーケティングのゼミでは必要です。「マーケティング・リサーチ」は、ゼミの研究にとって不可欠ですので履修を薦めます。 ゼミナールの共同研究は、あくまでもゼミ生一人ひとりの自発的な学習・研究活動に基づいています。コンパやゼミ旅行など、ゼミ生の積極的な参加によって、楽しいゼミにしたいと思います。チャレンジ精神のある学生を期待しています。 海外留学中の学生について、これまで本ゼミでは積極的に受け入れてきました。希望があれば、ぜひ相談して下さい。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 募集時期には海外研究でドイツ・ベルリンに滞在予定です。国内学生も留学中の学生にも個別にメールで事前連絡を取り、質問や相談を受けます。課題レポートと合わせて、そして留学計画などを含めた学習成果・意欲、マーケティングへの問題関心、GPAなどを総合的に加味して選考します。勉学はもちろん、学生生活において積極性のある学生を期待しています。		

PHOTO 	教員名 佐藤 典司	クラス番号 15
教員紹介 専門はデザインマネジメントです。デザインマネジメントをひと言でいうと、デザインのパワーを使って、ビジネスの発展をはかっていこうという学問です。学問としては新しい領域ですが、現実のビジネス社会では、例えば、製品のデザインであったり、広告や売り場のデザイン、ブランドマーク、企業サイトによるコミュニケーションなど、デザインを使った経営手法は、年々、盛んになっています。興味のある方は、どんどん応募してください。		
1. 専門演習テーマ デザインによるブランドづくり		
2. 専門演習の研究内容 現代のビジネスを進めていく上で、個々の商品ブランド力や、企業そのもののブランド力が重要であることは言うまでもありません。では、そのブランド力は、具体的にどうやって作られているかということ、製品デザインやブランドマーク、売り場のデザイン、あるいは、広告やネットによるコミュニケーション活動などによって行われているのが実際です。つまり、現代の企業にとって、価値あるブランドを創造しようとするれば、デザインパワーの効果的なマネジメントが欠かせない存在となりつつあります。本ゼミは、このようなデザインによるブランドづくりについて、理論と実践の両面から学んでいきます。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール Ⅰ 参考書を使用してデザインマネジメントの概要について学習。具体的デザイン関連プロジェクトを通じてのデザインマネジメントのポイントについての学習。およびレポートの作成 Ⅱ 具体的デザイン関連プロジェクトを通じてのデザインマネジメントのポイントについての学習およびゼミ論文の作成 Ⅲ 各自の関心事や研究テーマに沿って、デザインマネジメントを通じたブランド創造理論について学習。および卒業論文作成に向けた研究計画書の作成 Ⅳ 卒業論文の作成		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど <参考書> ・佐藤典司『情報消費社会を勝ち抜くデザインマネジメント戦略』NTT出版, 1999年 ・佐藤典司『情報消費社会のビジネス戦略』経済産業調査会, 2007年 ・佐藤典司『モノから情報へ 価値大転換社会の到来』経済産業調査会, 2012年		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ・マーケティング ・広告論 ・デザインマネジメント論		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） とくにありません		

PHOTO	教員名	クラス番号
	田中 力	16
教員紹介 和歌山県紀ノ川市桃山町出身。大学では経済学、大学院では農林経済学を専攻。立命館大学へは2000年に着任。土地・住宅、農林業を対象に地域統計分析を行うとともに、統計理論の研究をおこなっている。イタリア、ドイツでの学外研究を通して、国際統計比較にも関心あり。経済統計学会理事。 多趣味ですが、とくに古楽。中世からルネサンス、バロック期の教会音楽。フラウトトラベルソ。カトリック河原町教会の聖歌隊でベース担当。また、茶の湯。大徳寺瑞峯院で茶の湯の稽古。園芸。育てる里山プロジェクト。最近、かなと和歌の勉強を始めました。メール tanakats@ba.ritsume.ac.jp		
1. 専門演習テーマ 統計データによる地域の経営と社会の分析 ー衣食住を中心に地域の社会的分業をとらえるー		
2. 専門演習の研究内容 (質問) つぎの語句群から、聞いたことがあるものをチェックしてみてください。 里山、家庭菜園、無農薬野菜、グルテンフリー、発酵食品、草木染、床の間、畳、シックハウス症候群、在来工法（木造建築）、農本主義、間伐材、統計調査、多変量解析、地域経済、道の駅、農家レストラン、住宅産業、不動産鑑定士、木工芸、砥石、漆、和紙、炭、薪ストーブ、エシカル消費、フェアトレード、着物、抹茶、蔵元、ワイナリー、ジビエ、自然農法、楽器工房。 (診断) 以上のチェックリストは、本ゼミの卒業論文のテーマとして指導可能なキーワードを無作為にピックアップしたものです。ひとつでもあなたの知的好奇心のアンテナに引っかかったものがあれば、興味を失わずに勉強ができると思う。10個以上あるなら、ゼミを牽引していくことができます。 (目標) 卒業論文を書くこと。 政府や自治体による統計データ（公的統計または官庁統計という）を用いて、地域の経営と社会を分析し、論文にまとめます。とくに、衣食住にかかわる物事のプロセス、流通、消費の全過程に渡る社会的分業の様子を、文献研究および実態調査と統計データにもとづいてとらえることを目標にします。 (内容) 具体的内容は次項3のスケジュールに示しておきます。文献研究と統計分析を軸にして統計分析レポートと卒業論文の作成にむけて、ゼミを運営していきます。 (まとめ) そういう訳で、わがゼミでは、統計、衣食住、地域、農林水産業、建築・不動産に関心のある学生を求めている。幅広いので、公務員、教職志望から職人やアーティストになりたいという人、大学院に進んで研究者になりたいという人も歓迎です。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰ テキスト1（『村/百姓たちの近世』）の講読と統計分析の実習 専門演習Ⅱ テキスト2（『国富論』）の講読と統計分析レポートの作成 専門演習Ⅲ 卒論の書き方と個人論文のテーマ設定 専門演習Ⅳ 卒業論文の作成 ・演習Ⅰ,Ⅱでは研究のたたき台となるような文献を講読しつつ、統計分析レポートを作成します。 テキスト1『村/百姓たちの近世』では、日本の近世において生産消費における物質循環が自然環境に負荷の少ない形で形成されていたことを学びます。 テキスト2『国富論』は大部でなかなか一人では読み通せないものですが、社会的分業という視点から経済や経営をみるのには有益な古典中の古典です。 ・参考文献⑤の日本の古典古文なども、過年度輪読しましたが、ものの見方を培うのに役に立ちます。 これらの文献研究と同時並行的に、各人の研究テーマを暫定的に設定し、統計分析をふまえたレポートを作成します。 ・演習Ⅲ,Ⅳでは、いよいよ卒業論文に取り組みます。演習Ⅱの統計分析をさらに深めるものでもよいし、就職活動や公務員試験対策、大学院進学の研究計画に適合的なテーマを選ぶこともできます。卒業論文のテーマは、ゼミ生各自の関心と力量に応じて、相談しながら具体的に設定することとします。 論文の書き方として、文献の引用、リストの作成方法、統計図表の作成など、各種の技法は卒業後にも大いに役立つものであるから、心して取り組んでください。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキスト 専門演習Ⅰ [1] 水本邦彦（2015）『村/百姓たちの近世』岩波新書 [2] 金子治平・上藤一郎編（2007）『よくわかる統計学Ⅰ基礎編第2版』ミネルヴァ書房 専門演習Ⅱ [3] アダムスミス（1776）『国富論』岩波文庫 [4] 御園謙吉・良永康平（2007）『よくわかる統計学Ⅱ経済統計編第2版』ミネルヴァ書房 参考書 [5] 吉田兼好『徒然草』角川文庫 担当者の共著書 [6] 岩井浩他編『格差社会の統計分析』北海道大学出版会 2009。 [7] 吉田忠編『生活空間の統計指標分析-人口・環境・食糧-』産業統計研究社2002。 [8] 木下滋編『統計ガイドブック社会・経済（第2版）』大月書店1998		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ・ゼミナールは、一般の科目とは異なり、ゼミ報告や、課外の諸活動も含め、主体的にかかわる姿勢が大事です。工場見学、ゼミ旅行、茶の湯、「育てる里山プロジェクト」「コミュニティファーム」(*)に、積極的に参加していただきたい。 ・なお演習Ⅱ演習Ⅵの統計分析レポート、卒業論文はなるべく印刷物として製本したいので、編集作業への積極的参加をお願いします。 ・履修することが望ましい科目: 専門科目では「経営統計論」。 一般教育科目で、歴史や地理、自然科学など幅広い教養を身につけてください。 「統計学B」、「教養ゼミナール/里山の環境と文化」担当をしています。 *注 OICに雑木林スペースをつくるプロジェクトです。茨木市民のボランティアの皆さんと一緒にキャンパス内図書館南の里山エリアで、作業をしたり、コミュニティファームで無農薬野菜を作ったりします。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 成績も大事ですが、意欲、やる気の有無を重視します。里山活動、ゼミ旅行、合宿、工場見学等に参加できること。		

PHOTO 	教員名 三浦 一郎	クラス番号 17
教員紹介 昨年3月で定年退職になり、現在特任教授の2年目です。また、この5月末で12年間つとめていたある上場企業の社外取締役も退任しました。ちょっと遅いですが、ドラッカーのいう「第2の人生」に入っています。ドラッカーの発言が身に染みてきたところです。 演習のテーマは、昨年に続いて今回も、マーケティングの基本的問題にかかわるものにします。そして古典的ともいえるドラッカーとレビットから出発したいと思います。 imiura@ba.ritsumei.ac.jp		
1. 専門演習テーマ 顧客ニーズとマーケティング・コンセプトを考える		
2. 専門演習の研究内容 マーケティングは、簡単に言って、事業活動によって顧客ニーズをみだすことであるが、この顧客ニーズを意味あるものとして知ることが難しい。ドラッカーは、事業の目的を「顧客の創造」とし、そして「顧客の創造」は、①事業家が顧客の顕在ニーズに対応する事業を行うこと、②事業家が顧客の潜在ニーズに対応する事業を行うこと、しかも③事業家（企業）の意図と顧客の実際に感じている価値（顧客価値）との間には「ズレ」がある場合が多いので、この「ズレ」を顧客価値に沿って正すことが、事業の成功のために必要である、とした。 事業を行うにあたり、顧客ニーズを知ることは不可欠であるが、そのことが難しい。①顕在ニーズの場合、だれもが知ることのできることを知って、それに対応することが意味のあることかどうかを問う必要がある。②潜在ニーズの場合、顧客が意識していないのだから、顧客に聞いてもわからない。さてそれならどうするのか。そして③の顧客価値のフィードバックを生かすことは、実際にどのように機能しているか。 そしてレビットはドラッカーの影響下に、マーケティング・コンセプトについての議論を展開した。今回のゼミでは、顧客ニーズとマーケティングを考えることが、出発点となる。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 3回生では文献・テキストの輪読、討論を中心に、4回生では卒業論文の作成を目標に運営する。 専門演習Ⅰ：ビデオなども活用するが、セブンイレブン、ユニクロ、アマゾン、ヤマト運輸、星野リゾート、日清食品、ソニー、アップル、その他の事例をとりあげ、基本的問題についてのイメージを明確にするとともに、参考になる文献・テキストを輪読する。 専門演習Ⅱ：前期の作業を続けながら、参加者が卒業論文で取り上げるべき事例あるいは論点を明確化する。 専門演習Ⅲ：卒業論文のテーマの決定。参考になる文献・テキストの輪読。 専門演習Ⅳ：卒業論文の作成。研究発表。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 教科書は使用するつもりだが、現在決めかねているので、とりあえず参考書をあげておく。 1レビット『マーケティングの革新』ダイヤモンド社 2レビット『マーケティング・イメージネーション』ダイヤモンド社 3レビット『レビットのマーケティング思考法』ダイヤモンド社 4ドラッカー『現代の経営』『マネジメント』ダイヤモンド社 5石井淳蔵廣田章光編『1からのマーケティング第3版』碩学舎		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 本を読むことに抵抗のないことが望ましい。佐藤優『読書の技法』（東洋経済）などを読み、その気になってほしい。また図書館は活用するとしても、多少は本代がかかることも覚悟してほしい。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 当然GPA、取得単位数なども考慮するが、とくにレポートを重視する。		

PHOTO	教員名	クラス番号
	よしだ まり 吉田 満梨	18
教員紹介 岩手県生まれ、2003年立命館大学の国際関係学部を卒業後、神戸大学大学院経営学研究科で博士後期課程を修了し、東京での助教を経て、2010年4月から立命館大学経営学部に着任。皆さんは、吉田ゼミの8期生になります。 講義では、「マーケティング論」、「製品開発論」などを担当しています。研究テーマとしては、新しい製品市場が生み出されるプロセスの分析が中心で、伝統産業を含む多様な産業を対象としています。企業が自分だけではなく、ユーザーや外部企業を含む、多様なステークホルダーと市場価値を共創していく現実に関心があり、ゼミ生の皆さんに対しても、多様な資源をもったメンバーが共に活動をする事で、当初は予測されなかったような発見や価値が生まれる相互作用を期待しています！		
1. 専門演習テーマ マーケティング理論を手に、仲間と共に、 唯一の答えのない課題に取り組む		
2. 専門演習の研究内容 新しい市場や製品を作り出す過程は、唯一の答えもなく、始めに十分な情報もなく、自分で課題を定義しながら、試行錯誤で進むプロセスです。マーケティングの実践は、顧客のニーズや市場環境を分析・理解できる能力によって、そうした環境を理解すると同時に、自らが能動的に働きかけ、新しいニーズや環境を、仲間と共に作り出していく創造的活動でもあります。そうした不確実性の高い環境での課題解決に役立つ知識として、皆さんはこれまで、1回生時のマーケティング論や、他のマーケティング・流通の専門科目で「理論」を学んできました。ただし、小集団で行う専門演習では、マーケティング戦略、消費者調査、製品開発のフレームワークといった、講義で学んだ理論を、実際の現象を分析・理解し、自らも新しい価値提案を行うための「ツール」として、使いこなせるようになるための訓練の場としたいと思います。 特に3回生は、Student Innovation Collegeという実践的な商品開発コンテストへの参加など、特定の課題に取り組むグループワークが中心になります。4回生前期には、卒業論文のテーマの決定と併せて、それぞれに深く調査をしたい業界・市場を選択し、グループでの調査と発表を行います。後期は、各個人での論文執筆と発表を行います。これらはいずれも、一人ではできない課題ばかりです。多様な仲間と、チャレンジングな課題に取り組み、共に成長していきましょう。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 成績は、期末評価（レポート・商品企画書・卒業論文など）に加え、毎回のゼミに対する参加意欲・貢献度に基づいて総合的に評価する。 ● 専門演習Ⅰ：商品企画に関する理論的フレームワークの学習と活用 【期末評価：レポート】 ● 専門演習Ⅱ：インターカレッジ形式で新製品開発を競う「Student Innovation College」（Sカレ）に参加 Sカレの詳細（ https://cuusoo.com/sic ） 【期末評価：Sカレの商品企画書+期末レポート】 ● 専門演習Ⅲ：各自の研究テーマに基づく分析と発表 【期末評価：卒業論文の研究計画書】 ● 専門演習Ⅳ：卒業論文の中間報告・最終報告 【期末評価：卒業論文完成原稿】		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど マーケティング理論を復習したい人へ： 石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門（第2版）』日本経済新聞社、2013年。 マーケティングとはどんな仕事かを知りたい人へ： 魚谷雅彦『こころを動かすマーケティング—コカ・コーラのブランド価値はこうしてつくられる』ダイヤモンド社、2009年。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 2回生までに「マーケティング／マーケティング論」を履修すること。教科書的な知識を前提にゼミを進めますので、基本的な枠組み（STP, 4Pなど）はそれぞれに復習をしてきてください。 また、主体的に学ぶ意欲があること、他の人の気持ちを考えて行動できること、ゼミという組織的活動に対する責任感が求められます（あらゆる社会的な活動と同じように）。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 専門演習は、教員が一方的に教える講義とは違って、グループワークの中で自ら主体的に学び、また多様なゼミの仲間同士でも学びあってくれることを期待しています。そのため、高いモチベーションと責任感があり、自分の考えを他の人に伝えることができ、多様な個性を持った皆さんが、新しいゼミのメンバーとなってくれることを楽しみにしています。 選考は基本的に、レポートと面接で行います。ゼミ選択のための交流会及びゼミのことをより知ってもらうための面談では、現3回生のゼミの先輩とお話をしたいと思っています。 入ゼミを志望する方は、事前にメールにて面談・面接のアポイントが必要です。また別途指示がある場合には、それに従ってください。（問い合わせ等は、吉田満梨 mysosida@fc.ritsumei.ac.jp まで、メールでご連絡ください）		

PHOTO 	教員名 善本 哲夫	クラス番号 19
教員紹介 フィールドリサーチによる製造業研究が主たる専門。国内外の現場見学とインタビューから、特に日本製造業の姿を描き出す調査を重視。また、日本のものづくりに新たな流れを生み出す活動として、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「革新的設計生産技術」に従事している。当該活動に加え、最近では文理融合型研究として理系教員との協働による科学技術イノベーション成果の具体的社会実装実験（文科省COI）などを実施。		
1. 専門演習テーマ 産業と社会の新たなインターフェース： 科学技術イノベーションの社会的付加価値化		
2. 専門演習の研究内容 ゼミでは、ものづくりや科学技術イノベーション成果の実用化を通じた「社会課題の解決」にフォーカスを当てます。第5期科学技術基本計画では、「超スマート社会（Society 5.0）」の実現が大きなターゲットになっています。経団連も「Society 5.0 実現による日本再興」として、具体的なアクションプランを提言しています。「ものづくり」を単なる「生産現場」の活動や、職人や匠、技術、技能といった狭い世界で理解するのではなく、「社会発展のために何ができるか」を一つの価値観とする経済活動として捉え、またイノベーションについてもScience for Societyの視点から、その社会的付加価値化を考えていきます。モノもサービスも人工物です。人工物創造やその実用化・事業化において昨今の製造業で問われていることは何か、また農業や地域活性化にまで視野を広げるような柔軟な発想力をもって議論できる場を造ることができればよいな、と思っています。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール ・運営① 実証実験（科学技術イノベーション成果の社会実装）、合宿、他大学・学部との交流会などを実施します。 ※実証実験及び合宿は沖縄県石垣島で実施（実証実験は石垣島以外の地域でも実施します）。 ※実証実験はゼミから数名の参加者を募ります。 ・運営② 卒業論文は受講生自身による問題発見・課題設定を重視します。 ・運営③ このゼミはキャンパス外での授業時間外学修を重視しており、その企画等への積極的参加をゼミ生に期待します。  石垣島実証実験   丹波市実証実験		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど ・使用テキスト：演習開始後、指示します： 推薦書：尾瀬あきら『夏子の酒』講談社漫画文庫（全12巻）		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 農山村地域で山を眺めながら、そのありようと自動車工場の共通項に思いを巡らした経験ありますか？たぶん、そんなこと考えたことがない、といった反応が多いとおもいます。私が受講生に望むのは、驚きや発見に対する「飢え」です。ありふれた日常生活の中に、驚きのネタは転がっています。そのネタを感じ取る感性を大学時代に高めていって欲しい。そのためには、読書とともに、大学生なのですから、思いっきり遊ぶことが大事です。読書と遊びは、感性を磨くために必要な両輪です。「驚き」を感じない日常ってのは、つまらない。遊びに時間を費やすことができる、これが大学生の特権であり、その現場で何かしらの発見できるポテンシャルを読書が引き出してくれると、わたしは信じて疑いません。日常生活を常に鮮度の良い世界として感じ取ることができれば、こんなハッピーなことはないでしょう。「遊び心」って大事で、遊ばないと、その感性は磨けない。文武に「遊」を、がゼミのモットーです。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） ・知的な好奇心、発想力等を総合的に評価し、選考します。 ■注意事項： 2017年度は英国滞在中のため、ゼミ選考面談等はWEB会議システムを使って実施します。		

PHOTO 	教員名 桐畑 哲也	クラス番号 20
教員紹介 専門は、アントレプレナーシップ、アントレプレナーファイナンス。 アントレプレナーシップ研究は、研究を研究だけに終わらせず、より実践的な活動へと展開することが重要である。試行錯誤しながら、私と一緒に、“理論と実践”の両方に挑戦したいという学生を歓迎する。		
1. 専門演習テーマ アントレプレナーシップ-理論と実践-		
2. 専門演習の研究内容 アントレプレナーシップ、アントレプレナーファイナンスについて、理論及び実践の両面から学ぶ。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰ，Ⅱ：理論学習としては、クリティカルシンキング、統計分析等の基本をおさらいすると共に、アントレプレナーシップ、アントレプレナーファイナンスの基本理論を習得する。また、実践学習では、来年度は、アンケート調査をきっかけとして、皆さん自身で試行錯誤しながら、ベンチャー企業、ベンチャーキャピタルへアクセス、訪問、コミュニケーション等を行ってもらう。皆さんが行ったアンケート調査結果等、理論と実践の両面の成果をゼミ論文としてまとめてもらうことになる。 専門演習Ⅲ，Ⅳ：履修学生個々の主体的な学習を強く奨励する。それぞれキャリアデザインを設定し、そのために、今何をすべきかを徹底的に考えてもらう。理論学習では、担当教員としてのサポートは行うが、自らが必要な学習書、論文の発掘、読み込みを主体的に行ってもらい。また、実践面では、学内ゼミナール大会への参加はもちろん、講演会、交流会の開催、フィールドワーク等、受講生自身が主体的にアクションを起こすことを強く指導する。成果物としては、卒業論文を念頭に、研究計画書を作成する。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 教科書、参考書は、初回授業で指示する。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 本授業は、主として理論とその実践で構成され、受講生が、主体的に授業に参加し、実践力を養うアクティブラーニングメソッドロジー（Active Learning Methodology）による教授法をベースとしている。参加学生は、主体的な授業へのコミットメント、努力を惜しまぬ姿勢が必須。この点は十分理解の上、参加すること。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 今後2年にわたる専門演習において、どれだけ主体的かつ努力を惜しまず頑張れるのか、その意欲、コミットメントを課題レポートから評価する。現状の成績、単位、知識等は、選考の際考慮しない。また、過去に当該専門演習の担当教員（桐畑）の授業を履修していることが望ましい。		

PHOTO 	教員名 黒木 正樹	クラス番号 21
教員紹介 アメリカ合衆国：Rensselaer Polytechnic Instituteで博士を取得しました。 趣味：風景ポスターの収集、音楽：クラシック、ジャズ。 好きなこと：野球、スキー、スノーシュー、野外キャンプ、山登り。 野球：「50年以上にわたる涙の広島カープファン」。しかし、2016年度以来、少し安心してプロ野球観戦をしています！		
1. 専門演習テーマ イノベーションと起業家		
2. 専門演習の研究内容 イノベーションを生み出す社会構造、関係組織のあり方やベンチャー企業の成長過程への理解力を増やす。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール ゼミ決定者：(2回生春休み) 全員に各自で見つけたインターンシップ(2週間以上)へ行って貰います。内容について、第1回目の授業で一人15分程度のプレゼンをして貰う。インターンシップを経験しない学生は、A4で15頁モノの英文和訳レポートを提出してもらう。両方やらない人は、前期の評価が厳しくなります。 3回生前期：イノベーションと起業家、そしてベンチャー企業に関する基礎文献を読んでいき基礎用語そして現在の主要な研究のトレンドを掌握してもらう。後期に向けて各自が分析するベンチャー企業と起業家を前期中(7月上旬)に決定してもらう。3回生の夏休み：全員各自で見つけたインターンシップ(最低2週間のインターンシップ)へ行って貰う。インターンシップを経験しない学生はA4で15頁モノの英文和訳レポートを提出してもらう。そのどちらも出来ない人には、後期の受講資格なしと判断します。既存企業の起業家、そしてベンチャービジネスに関する本(一人2冊)を各人が夏休み中に熟読し、後期の第1回目と第2回目の授業でその内容を一人10分程度のプレゼンテーションしてもらう。3回生後期：ゼミ生2～3名を1チームとしたチーム担当形式で企業の事例集を使用した分析と発表と討論を中心とした演習形式の講義を行う。また最終的にゼミ生には、2～3名を1チームとしてベンチャー企業分析・業界分析をしたレポートを1月中旬に提出してもらう。 3回生の前期・後期の都合の良い時期：BKCのインキュベータ訪問と他大学のゼミ生との勉強会に臨みます。2017年度は、11月上旬に九州大学経済学府所属の学生達の勉強会へ参加します。 また、ゼミ生を主体として、シリコンバレー研修にチャレンジしましょう！ 4回生前期：大半のゼミ生は就職活動中心の生活となる。その中で、ゼミ生2名を1チームとしたチーム担当形式で企業事例を使用した分析と発表を中心とした演習形式の講義を行う。卒業研究の課題・タイトルの確定。夏休み：各自で設定した課題。 4回生後期：卒業研究センター。それ以外では、前期と同じレベルの課題をやってもらう。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど ・宮田矢八郎「経営学100年の思想」(ダイヤモンド社) ・小久保厚朗「イノベーションを生み出す秘訣」(ダイヤモンド社) ・ウォルター・アイザックソン「スティーブ・ジョブズ(自叙伝)」(講談社)		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など (1) 予習は必ずすること (2) クラスの議論への参加 (3) チームワークの大切さが解かる人 (4) 3回生期になるとハーバード・ビジネススクールのケース(英文和訳)を頻繁に使います。		
6. 選考の際の評価ポイント(GPA、取得単位数など) GPA:2.0以上。過去1年間の学生生活を振り返り自分自身を手短(10分程度)に的確に語れること。		

PHOTO 	教員名 小島 愛	クラス番号 22
教員紹介 早いもので8期生を募集することになりました。新しいゼミ生たちに出会えるのを楽しみにしています。私の出身は、岐阜県の刃物のまち関市です。学生時代を東京で過ごした後、経営学部に来てもう10年目になりました。日ごろは主に、日本でも整備の必要性が叫ばれている介護施設や病院の調査研究をしています。 メールアドレス megumi@ba.ritsume.ac.jp 個人ホームページ http://meguko.jp/		
1. 専門演習テーマ 少子高齢化時代における公共・非営利セクターの貢献		
2. 専門演習の研究内容 皆さんは、近年報道されたSTAP細胞の問題をどのように理解していますか？テレビや新聞の解説を鵜呑みにしていませんか？実はこの問題の背景には、個人の行動だけでなく、公企業のマネジメントに関する問題があります。私のゼミでは、少子高齢化時代にますます重要性の高まる公共・非営利セクターの組織のマネジメントについて、プロの視点から考察および議論を行っています。 ゼミのテーマは、対象が公企業（官公庁や地方公共団体など）もしくは非営利組織（ボランティア団体や協同組合、財団、介護施設、病院や学校など想像以上に広いです）であれば何でも構いません。場合によっては営利企業の社会貢献活動（Corporate Social Responsibilityやスポーツ支援など）でも大丈夫です。重要なことは、自分でテーマを見つけ、自分の頭で考え論理をまとめ、説得力をもつこと。これが論文を書くということです。これら一連の能力は、皆さんが将来どのような職業につくにしても大いに役に立つことでしょう。ゼミは、この力を養える絶好の機会です。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 3回生では学内ゼミナール大会出場、4回生では卒業論文の作成が学習到達目標です。下記は半期ごとの課題です。 3回生前期「専門演習Ⅰ」 文献の輪読・研究スキルの習得・グループでのプレゼン・個人レポートの提出 3回生後期「専門演習Ⅱ」 フィールド調査など・論文の執筆と提出・ゼミナール大会での発表 4回生前期「専門演習Ⅲ」 卒業論文のテーマ探し・研究計画書の提出 4回生後期「専門演習Ⅳ」 卒業論文の提出 適宜、関連分野のゲストスピーカーの招聘、調査活動、OBや上級生による就活支援などのスケジュールをできる範囲で組み込みます。先輩達は毎年自主的に夏の旅行やゼミ大前合宿、普段の飲み会などを提案し実行しています（私も時間の許す限り参加します）。この夏は3回生たちと高松へゼミ旅行をし、より結束力が高まりました。 7期生までの就職状況は、金融とメーカーの割合が男女ともに大きかったですが、情報通信、インフラ、商社、サービス系なども増えていますし、ゼミで学んだ内容をより直接的に生かすべく公務員や小中学校教員、ボランティア団体に就いたり、留学したりするケースも多いです。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 使用テキストは皆さんの興味等に応じて決めます。下記は参考書として挙げます。世界の最新事情を得るために、一部英語の資料を用いる可能性があります。 田尾雅夫・吉田忠彦[2009]『非営利組織論』有斐閣アルマ。 柏木恵[2014]『英国の国営医療改革：ブレア＝ブラウン政権の福祉国家再編政策』日本評論社。 現役ゼミ生の活動状況や私の研究内容等の詳細は、私の個人ホームページをご覧ください。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 皆で切磋琢磨し学びを深めることこそ、大学生活の醍醐味です。以下は最低限守ってください。 (1) 欠席・遅刻をしないこと。その他、人の話を聞くことなど社会的なマナーを守ってください。 (2) 学ぶことに対して受け身にならず、ゼミの一員として明るく責任感をもった行動を心がけてください。 (3) 学部講義「非営利組織論」を可能な限り履修して関連知識を得てください。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 興味のある学生は、ゼミ選択交流会とオープンゼミに是非きてください。もちろん私もですが、4・3回ゼミ生たちが皆さんの質問に親身に答えてくれるでしょう。 そのうえで選考は、スマートアンケートでの課題と面談で行います。面談日時を決めるため、応募前に上記のメールアドレスに連絡をください。GPAや取得単位数等で足切りにしたことはないですが、応募者数次第では参考にするかもしれません。		

PHOTO 	教員名 たにかわ ともひこ 谷川 智彦	クラス番号 23
教員紹介 専門は組織行動論と マネジメント論です。研究テーマは組織におけるダイバーシティ（多様性）を研究しています。具体的には、私たちが所属する組織が多様な場合、それが組織や個人の成果に対してどのような影響をあたえるのかを定量的アプローチから研究しています。趣味はサッカー（Jリーグ）観戦。山口県出身。		
1. 専門演習テーマ 組織で活動する個人に関する研究		
2. 専門演習の研究内容 この専門演習では、組織で活動する個人に焦点を当て考察していきます。経営学において組織の考察は必要不可欠な要素ですが、その組織は決して均一な人物によって構成されるのではなく、様々な意思や性格、目的を持った人物によって構成されます。したがって、企業や組織を理解するためには、組織で活動する個人を理解することが重要となります。 この専門演習では、組織で活動する個人に焦点を当てた調査研究を通して組織で活動する個人を理解すると同時に、論文の執筆を通して自らの考えを発信する力を習得します。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 <主な活動：研究に関する基本的な知識の習得と簡単な調査の実施> まずは、「研究とは何か?」、「論文とレポートとはどう違うのか?」という問いから始まる、研究方法に関する基本的な知識を勉強します。その後、後半では専門演習のテーマに関係する簡単な調査を通じて、テーマの選定から論文の執筆までの一連の研究のプロセスを体験してもらいます（グループ研究）。 【専門演習Ⅲ・Ⅳ】 <主な活動：発展的な調査研究（卒業論文の執筆）> 専門演習Ⅰ・Ⅱで習得した専門的知識や調査手法を更に発展させる形で研究を行ってもらいます（個人研究）。具体的には、各人が研究テーマを考え、研究計画の立案から理論レビュー、調査・分析を行います。その結果として卒業論文を執筆していきます。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 組織行動論に関する最先端の知見は書籍ではなく論文にて蓄積される傾向にあります。したがって基本的には研究テーマに沿った論文（日本語・英語）を使用して研究を行ってもらいます。 ですが、以下の2つのテキストの内容が専門演習開始時に既に把握できているとの前提で活動しますので、当専門演習への所属が決まった場合、活動開始までにテキストを購入・熟読してください。 ①スティーブンP.ロビンズ著、高木晴夫訳（2011）『新版組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社。 ②清水裕士・荘島宏二郎著（2017）『社会心理学のための統計学—心理尺度の構成と分析—』誠信書房。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など <u>（1）正規の演習の時間だけでは限られるため、自発的に研究テーマ等を研究・勉強してください。</u> （2）演習ではグループ研究など集団で活動することが多いため、主体的な参加が望まれます。 （3）演習で行うことに関連した講義を積極的に履修してください。（例えば「組織行動論」や「戦略経営論」、「人的資源管理論」など）		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 選考は、基本的には志望理由とレポート課題、成績に基づいて判断します。		

PHOTO	教員名	クラス番号
	中村 真悟	24
教員紹介		
石油産業、石油化学工業、リサイクル産業などを対象に、技術と労働の関係、産業政策やグローバル化が産業の技術・労働・環境に与える影響について研究しています。 趣味は産業・企業・歴史博物館・酒蔵・伝統工芸めぐり、音楽鑑賞（モルダウ、ボレロ、巨人をよく聴いています）、スポーツ観戦（ラグビー、アメフト、剣道など）、将棋（弱いですが）など。ゼミは生涯の友人を作る大切な場だと思っています。大いに学び、遊びましょう。		
1. 専門演習テーマ		
顧客・社会・環境に配慮した「ものづくり」を考える		
2. 専門演習の研究内容		
「環境に優しい商品」、「安全・安心な食材・食品」など、皆さんの身の回りに存在している商品には様々な「付加価値」が付けられており、おそらく皆さんの消費行動や就職活動などの進路選択に少なからず影響を及ぼしていると思います。ところで、そうした「環境に優しい」、「安全・安心」というのは商品の「付加価値」ですが、これらを実現するための生産活動は「どこで」、「誰が」、「どのように」行っているのでしょうか。また、商品が作り上げられ、提供されるまでのプロセスで、労働者、地域、社会、環境に対してどのような配慮がなされているのでしょうか。安くて機能的な商品は消費者にとって嬉しいものですが、その「安さ」「機能性」はどのような企業努力によって実現されているのでしょうか。また最近では、情報技術の製造、サービス等への浸透が進んでいますが、そのことは単に消費者への利便性向上だけでは止まらない、製造、生産管理・品質管理、物流等における働き方に大きな変化をもたらさそうとしています。 本ゼミでは、そうした商品の背後にある「ものづくり」のプロセス、とりわけ製造技術の発達を規定する自然的・社会的条件、製造技術の発達がもたらす自然的・社会的影響にまで立ち入り、各種産業の顧客・社会・環境に配慮した「ものづくり」の取組・課題・展望を考えていきます。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール		
[専門演習Ⅰ]①基礎文献の検討、②研究計画の作成 [専門演習Ⅱ]①論文執筆 [専門演習Ⅲ]①卒業論文に向けた研究計画書の作成 [専門演習Ⅳ]①卒業論文の執筆		
		
		
※本年度3回生ゼミの主な活動は以下のとおりです。 前期：ゼミ対抗スポーツ大会、インゼミ発表会（京都）、夏合宿（農業体験）、インゼミ発表会（北海道）など 研究テーマ：食品企業と安全、植物工場、建築産業と環境、建設機械と情報技術、伝統的産業、日本酒 ※本年度4回生ゼミの主な活動は以下のとおりです。 3回生期：工場見学（住宅メーカー）、夏合宿（愛知）、研究テーマ：自動車、IOT、食品、リニア 4回生期：技術革新（FA、標準化、物流など）、地域（行政・金融）と企業、サービスの電子化など		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど		
[使用テキスト]講義開始時に提示します。 [参考書・推薦書]兵藤友博ほか『科学・技術と社会を考える』ムイスリ出版、2011年。 中瀬哲史『エッセンシャル経営史』中央経済社、2016年。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など		
私がゼミ生に期待することは「学問を楽問する」（学ぶことを楽もう。問いを楽しむ、深めることを楽しもう、決して楽に学ぼうではありません！）ことです。ゼミの企画・運営（研究活動、工場見学、合宿、スポーツレクなど）は学生主体で行っており、ゼミ生各自の主体性・社会性、そしてチームワークが大変重要です。「ものづくり」への関心に加えて、そうした力を身に付けたいという意欲のある人を求めます。チームワークは苦手だけれど、一つのテーマ・論点をじっくりと突き詰めて考えたいという人ももちろん大歓迎です。 （履修希望科目：技術経営論、生産システム論、技術革新論、情報システム論）		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など）		
志望理由書、面談、成績等を踏まえて総合的に判断します。		

PHOTO 	教員名 森 祐介	クラス番号 25
教員紹介 東京都出身、趣味は映画鑑賞です（SFやアクションをよく観ます）。 商学部・商学研究科の出身ですが、組織の経済学を専門としています。特に、企業が操業に必要なインプットを入手する際に他社に外注すべきか、自社で内製すべきかの意思決定（「企業の境界」と呼ばれます）に関心があります。 メールアドレス：ymori@fc.ritsumeit.ac.jp（質問・面談希望などあればどうぞ）		
1. 専門演習テーマ 企業組織の経済分析		
2. 専門演習の研究内容 本演習では、以下のテーマを順に扱います。 ● ゲーム理論：企業内外の協力・競争関係の分析へ向けた準備として、複数の行動主体間の相互依存関係を分析するツール、ゲーム理論を勉強します。企業分析はもちろん、ゲーム理論の知識は皆さんが他の人との関わり方を考える上で重要な視座を与えてくれるでしょう。 ● 組織の経済学：企業組織の組織構造、人事政策などを経済学的観点から分析・解釈します。具体的なトピックの例として、「企業組織をデザインする上でどんなことに気をつけるべきか」、「なぜ企業は存在するのか」、「従業員のやる気を高めるには、どんな仕事を、どんな給料で任せるべきか」などが挙げられます。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール ● 専門演習Ⅰ：ゲーム理論のテキストを輪読します。成果物はゲーム理論を用いた事例分析とします。 ● 専門演習Ⅱ：組織の経済学に関するテキストを輪読します。並行して、各自あるいは各グループでゼミ論文を作成してもらいます。 ● 専門演習Ⅲ：組織の経済学のテキスト輪読を継続しつつ、卒業論文の準備作業（テーマ、分析の大まかな道筋の決定）を行います。卒論準備の成果は研究計画書にまとめてもらいます。 ● 専門演習Ⅳ：各自、定期的に中間報告を行いながら、卒業論文の作成に注力してもらいます。 ※ゼミ論文・卒業論文いずれについても、ゲーム理論を用いた分析を必須とします。テーマは自由としますが、卒業論文については、企業にまつわるテーマの選択を強くすすめます。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキストは以下を予定しています。 ● 神戸伸輔（著）『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社、2004年 ● ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ（著）『組織の経済学』NTT出版、1997年		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ● 各回のゼミは、予定された内容を完了するまで続けます。時間割の予定を大幅に超えてゼミを継続することも十分あり得ますので、ゼミの後には予定を入れないでください。 ● 輪読の報告担当者は事前に決めず、ゼミ当日にランダムに指名します。 ● 活発に質問・コメントし、自ら議論を進めていくような、積極的な参加姿勢を望みます。 ● 経済学的なモノの見方に慣れ親しむ上で、「ミクロ経済学」の履修をおすすめします。また、「組織の経済学」の並行履修を推奨します。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 主として、レポート課題・面接で評価します。成績による足切りは考えていませんが、場合によっては追加情報・課題などを要求する場合があります。		

PHOTO 	教員名 守屋 貴司	クラス番号 26
教員紹介 博士（社会学・立命館大学）、関西学院大学大学院商学研究科で経営学（商学修士）。立命館大学大学院社会学研究科で社会学を学び、「企業と社会」という広い視点から企業・経営現象を研究しています。専門は、人的資源管理論（人の働かせ方）、キャリア開発論（人の働き方）、地域マネジメント論です。趣味は、映画鑑賞と読書、旅行などです。近年取り組んでいる研究としては、外国人労働問題、女性労働研究、地域マネジメント、タレントマネジメントなどについて取り組んでいます。		
1. 専門演習テーマ 現代社会の「働き方」と「働かせ方」に関する研究 —女性にとって優しい企業とキャリア形成—		
2. 専門演習の研究内容 この専門演習の研究内容としては、基本としては、現代の「働き方」「働かせ方」やキャリア形成などについて、経営学・社会学の理論を基礎として、分析・解明することにあります。この専門演習の具体的な学習・研究内容としては、①現代社会における女性の職場における差別構造や女性に優しい（働きやすい）企業を研究したり、②現代企業や役所などの組織の「働き方」「働かせ方」の研究や③フリーター・ニートなどの非正規雇用の研究や、④現代日本の外国人労働者の研究、⑤様々な職種（社長・教員・ジャーナリスト・公務員・スポーツ選手等）のキャリア形成に関して研究といったような広く現代社会（外国も可）の「人の管理と労働」、そして、「キャリア形成」に関することです。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 3回生の前期（専門演習Ⅰ）では、まず指定テキストのグループ報告とその後、その内容を巡ってグループディスカッションをしてもらい「人の働かせ方」「働き方」に関する基礎理論について学びます。そして、最後にレポート提出してもらいます。3回生の後期（専門演習Ⅱ）では、一人一人研究テーマを選択してもらい、希望者があればグループを組んでゼミナール大会に参加してもらい、最後に進級論文として提出してもらいます。4回生の前期（専門演習Ⅲ）では、ゼミの進級論文を発展させてもらい、卒業論文計画書を作成し、卒業論文の概要報告のプレゼンをおこない、その内容について卒業論文研究計画書を作成・提出してもらいます。そして、3回生後期・4回生前期では、就職指導に力点をおきながら、卒業論文研究計画書に発展させて、卒業論文を提出してもらいます。本専門演習では、学習・研究指導と並行して、就職指導をおこないます。3回生の夏休みには、民間企業への就職志望者には「インターンシップへの参加」を推奨し、模擬就職面接会や模擬筆記試験などをおこない就職指導・学生諸君の希望にあわせておこないます。そして、4回生後期（専門演習Ⅳ）では、卒業論文を作成・報告・提出してもらいます。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキストとしては別途、指定します！ 本専門演習については、下記のゼミブログをご覧ください。↓ http://ameblo.jp/careerdesignzemi/ ブログ名「キャリアデザインゼミナール」		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 専門演習では、人的資源管理の学習・研究活動と並行して、就職活動を参与観察的PBLとして、ゼミ生全員で、自己分析、自分史の作成、エントリーシート記入練習、筆記試験対策、面接対策、就職内定者・OB・OGによる懇談会・キャリアガイダンス、インターンシップ、4回生メンターによる就職サポートなどきめの細かい就職指導をおこないますので、積極的にそうした就職活動やPBLに取り組む方を求めます。それゆえ、研究・自らのキャリアデザインに真摯に向き合う学生諸君を求めます。本専門演習では、結果として、就職結果は、毎年、とても良いものとなっていますが、本専門演習の狙いは、就職活動を通して、日本の人事管理、特に、採用管理について考えることと、キャリアデザイン・ライフデザインを深く考える一契機として就職活動に取り組むことです。3回生以上で履修すべき科目としては、人的資源管理論があります。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） ゼミ選考は、①志望理由書（字数制限あり）、②面接、③取得単位数およびGPAの4つの総合評価でおこないます。特に、面接を重視し、志望理由、自己PR、大学時代取り組んできた事、相性などをお聞きし、評価をおこないます。		

PHOTO 	教員名 山崎 敏夫	クラス番号 27
教員紹介 学問研究の世界に入ってはや30年近くになります。これまでに9冊の著書（単著、うち1冊は英書）を出版しましたが、学問の楽しさがやっと見えてきました。その楽しさとおもしろさを皆さんにも伝えていければと思っています。趣味は鉄道での旅ですが、私はいわゆる「鉄ちゃん」（乗り鉄、見る鉄、撮り鉄）と呼ばれる部類に属するかもしれません。また鉄道模型で楽しんだりもしています。鉄道模型は大変高価で、ずいぶんお金のかかる趣味ですが……。似た趣味をもつ人がおられたら、お声をかけてください。		
1. 専門演習テーマ 企業経営の国際比較研究——日本とドイツの戦後を読み解く——		
2. 専門演習の研究内容 この演習では、今日のグローバル段階に至る第2次大戦後の企業経営の展開、企業の発展のプロセスについて、日本とドイツの比較を中心に学ぶ。日本とドイツは、ともに第2次大戦の敗戦国でありながら、戦後にはアメリカから技術と経営方式を導入し、その一方で独自の産業集中の体制を構築するなかで、それぞれアジアとヨーロッパのリーダーになり、世界有数の貿易立国となるなど、共通性がみられる。しかし、両国の今日の経済と企業をとりまく状況は大きく異なっている。日本は貿易におけるアメリカ依存を残しながら、またアジアでの共同市場が成立していない状況のもとで、グローバル化をすすめる一方でアジア化を推進している。これに対して、ドイツはアメリカから自立した展開をすすめる、グローバル化を推し進めつつも、ヨーロッパ化し、EUという有利な条件のもとに発展をとげてきた。このような「グローバル地域化」における相違は、戦後における両国の企業経営の展開によってどのように規定されることになったのか。こうした問題にアプローチすることによって、日本とドイツの企業と資本主義経済の発展の特徴をとらえるとともに、国際比較の視点から分析を行う力の獲得をめざす。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 3回生時（専門演習ⅠおよびⅡ）には、テキストの各章の発表・討論をとおして内容をしっかりと勉強し、基礎的な理解に到達することを目標とする。それをふまえて、4回生の前期（専門演習Ⅲ）には、卒業論文の作成を視野に、各自が関心を持つ問題を調べ、それを報告・討論するかたちで研究を進める。こうした学習を基礎にして4回生の後期（専門演習Ⅳ）では、各自の独自のテーマを設定し、2年間の研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキスト：山崎敏夫『企業経営の日独比較——産業集中体制および「アメリカ化」と「再構造化」——』森山書店、2013年 参考書：山崎敏夫『現代のドイツ企業——そのグローバル地域化と経営特質——』森山書店、2013年 山崎敏夫『戦後ドイツ資本主義と企業経営』森山書店、2009年 山崎敏夫『現代経営学の再構築——企業経営の本質把握——』森山書店、2005年 Toshio Yamazaki, <i>German Business Management: A Japanese Perspective on Regional Development Factors</i>, Springer, 2013		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 受講生に望むことは、当然のことではあるが、きちんと準備をして出席し、参加することであり、無断欠席は厳禁である。ゼミナールは、専門分野の研究を少人数で行うものであり、その目標は自主的・専門的な学習をとおして専門的能力の養成をはかることにあり、各種の行事（ゼミ旅行、レクリエーション、コンパ等）をとおしてその人間的交流を深める場でもあります。お互いの創意をいかすことによってゼミナールを活発で楽しいものにし、各人が積極的に発言することのできるものにしたい。 また担当者の講義科目である「比較経営史」は必ず受講されたい。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 選考にあたっては、当ゼミへの志望理由が問題関心とよく合致しているか、経済や企業経営に関する問題関心の的確さを重視する。GPAや取得単位数は、一定程度以上の水準であることが望ましい。なお、このゼミの学習内容はやや骨のある重たいものであるため、多少の覚悟をもって臨まれたい。		

PHOTO	教員名	クラス番号
	山崎 文徳	28
教員紹介 滋賀県東近江市生まれ。趣味は1歳の娘と遊ぶこととサッカー（フットサル）です。2012年に赴任し、主に「技術経営論」（2回生前期）と「技術革新論」（3回生以上）を担当しています。みなさんは山崎ゼミ4期生となります。大学生活のお勧めは、何でも話せる友人をつくり、腰を据えた学び（＋遊び）を経験することです。「事実は現場にある」をモットーに、研究ではアウトドアを自称しています。2017年度は航空宇宙産業（ボーイング）やIT産業（アマゾンやマイクロソフトの本社）が集積するアメリカのシアトルで在外研究中です。E-mail yama2012@fc.ritsumeai.ac.jp		
1. 専門演習テーマ ものづくりの現場から現代社会のこれからを考える		
2. 専門演習の研究内容 ※下記テーマ1と2のどちらか（もしくは両方）に関心をもつ人が募集対象です (1) テーマ1：企業経営とものづくり 経営学部生のみなさんは、ものづくりや技術、生産とは無関係と感ずるかもしれません。しかし、社会を変革する革新的な技術は製造業が生み出し、流通業や金融業、サービス業では生み出された新技術を利用して企業活動を行います。したがって、企業組織の幹部や優れた営業マンになるためには、自社の技術や商品の特性と生産プロセスを理解し、開発・生産現場の技術者と協力しながら顧客のニーズを実現する方法を考えることが重要です。このゼミでは、IoTやIndustry 4.0などが注目される一方で、日本企業の強みと弱みを考えるために、顧客・市場の要求（marketing）と商品の技術（product）や生産の技術（production）の接点に着目します。 (2) テーマ2：現代社会とものづくり 現代社会は、地球温暖化や原発事故のような環境問題、ブラック企業における労働・安全問題、大学における軍事研究や無人化技術の軍事利用などの社会問題を抱えています。そこでこのゼミでは、社会的課題の解決策を考えるために、ものづくりの視点からのアプローチを試みます（広い意味ではテーマ1も含みます）。 (3) 研究の方法 文献やメディアに加えて、調査を通じて生の事実学びながら問題意識を深めます。そのため、平日（主にゼミ日）に課外での企業調査やフィールドワークを行います。アポイントメントや調査のコーディネートは、学生主体で行えるようサポートします。調査は、①アポとりと事前学習・質問作成、②調査実施、③調査報告の作成というサイクルで行い、半期に1～2回実施します。また、ゼミ運営を通じて、研究能力や分析力だけでなく、組織力や企画力、集団性と社会性の獲得も目指してもらいたいと思っています。 ※1期生はヤクルト、シャープ（亀山）、TOTO、宇治の中小企業、堀場製作所、2期生は明治製菓、住友精密、アサヒビール、三菱自動車（京都）、ダイキン（草津）、3期生はグリコ、新日鐵名古屋、トヨタ産業技術記念館など		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール ・3回生前期「専門演習Ⅰ」：資料の集め方や論文の書き方、発表の仕方を学びながら問題意識を深めてレポートを作成。夏季休暇中はFWを兼ねた夏合宿を実施（不参加の場合は別途課題を提出）。 ・3回生後期「専門演習Ⅱ」：製品・産業別のグループに分かれてゼミ論文を作成、ゼミナール大会に出場 ・4回生前期「専門演習Ⅲ」：卒業論文計画書を作成。自己分析や就活経験の交流、業界研究を適時実施 ・4回生後期「専門演習Ⅳ」：12000字以上の卒業論文を個人で作成（大学生活の振り返りと締めくくり）		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど ・図書資料：企業の社史（Runnersで「企業名 社史」のキーワードで検索）。本を買って部屋に書棚を作る。 宮崎智彦（2008）『ガラパゴス化する日本の製造業』東洋経済新報社。 安井邦雄（2001）『戦後日本産業の展開過程』（大阪市立大学『ビジネス・エッセンシャルズ⑥産業』1章） 山崎文徳（2016）『市場の要求に応える技術経営のジレンマ』『経営学部で学ぶ人のために』 兵藤友博他（2017）『科学と技術の歴史（改訂版）』ムイスリ出版。 ・雑誌資料：雑誌論文の検索サイトCiNiiやJ-stageの活用、図書館所蔵の雑誌のコピー。 ・新聞資料：図書館データベースで日経テレコンの活用。新聞を購読（朝日/毎日/日経/読売/産経他）。 ・ネット資料：企業や業界団体、研究所のHPなど書き手が明確で信頼できるものを印刷、線を引いて読む。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ゼミでは必ず疑問点・論点を用意すること。疑問をもつことが理解を進める第一歩です。「質問はありません」「わかりません」はNGです。専門科目の「技術経営論」「生産システム論」「産業技術論」「技術革新論」教養科目の「科学と技術の歴史」「科学・技術と社会」の履修推奨。希望次第でゼミ時間外に自主ゼミを開催。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） レポート内容と電子メールによる事前のヒアリングから総合的に判断します。申込を検討している人は、件名を「ゼミの相談」として本文に氏名を明記し、申込前にメールでご連絡下さい（面談の代わり）。		

PHOTO 	教員名 劉 慶紅 (Ryu Keikoh)	クラス番号 29
教員紹介 立命館大学経営学部准教授、博士（公共経営）、大手日系電気メーカーにおいて海外事業推進の統括担当を経験し、幹部職として海外現地法人赴任を経て現職へ、米国スタンフォード大学在外研究歴あり。現在スタンフォード大学の研究アドバイザーとしても学際的な研究に従事。 普段は立命館大学とスタンフォード大学、北京大学を行き来しています。趣味はクラシック音楽を聴くこと・サッカー観戦などです。娘が7歳になりました、日本語・中国語・英語を教えているので大忙しですが幸せです。 学生の皆さんには、<u>ゼミを通して自主的に学習し、「何かをやりきった」と言える</u>学生生活を送っていただきたいと思います。ゼミの主役は皆さんです。<u>「楽しいけど力のつくゼミ」</u>そんなゼミと一緒に作りたいと思っています。気軽に研究室に遊びにきてください。<u>一期一会の出会いを大切にしましょう。</u> E-Mailアドレス：k-ryu@fc.ritsumeai.ac.jp		
1. 専門演習テーマ 「企業倫理」の視点から学ぶ真の「インターナショナル・マネジメント」 —理論と実践—		
2. 専門演習の研究内容 (1) 企業倫理の視点に立ったインターナショナル・マネジメントを理論と実践の両面から、新しい研究成果を援用しつつ包括的かつ体系的に整理し研究します。 (2) 21世紀という新しい時代を意識しつつ、インターナショナル・マネジメント新しいトレンドや現代社会が直面する諸課題を取り上げて考察します。 (3) 特に、今注目されているCSRや、国際ビジネスを中心に、企業倫理を絡めて学習していきます。 (4) 学生中心となって、密度の濃い発表やディスカッション、他大学とのゼミ交流、学内外懸賞論文への応募などを行うことにより学習効果を高めていきます。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール スケジュール 3年前期 基礎知識を固めていきます。 3年後期 海外の大学との交流、企業研修への参加を検討しております。 4年前期 企業からの実践的なテーマに基づいて研究発表を検討しております。 4年後期 まとめとして学内外懸賞論文への応募および学内外のゼミナール大会への参加を検討しております。 最終成果物 (1) ゲストスピーカーによる講演や企業見学も学期に1度は予定しております。（今年はスタンフォード大学からのゲストスピーカーの講演を2回実施しました。） (2) 随時インターンシップの参加や他大学とのゼミ交流・合同合宿も検討しております。 (3) その他（ゼミ旅行や合宿、BBQなど） ※運営方法：具体的なスケジュールや最終成果物などは、皆さんと話し合いの上で決めていきます。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど ※所属ゼミ確定後、話し合いの上で決めていきます。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 特にありません。 ※経営学科の学生でも国際経営学科の学生でも学科、専攻、問わず大歓迎です。 ※英語、中国語での指導も出来ますので、留学生の方も大歓迎です。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） ※GPA以上に本気度、学習への意欲を重視して選考致します。		

PHOTO 	教員名 浅田 孝幸	クラス番号 30
1. 専門演習テーマ ベンチャー・中小企業から大企業まで含めて、(非営利組織もOK) 管理会計・マネジメントコントロール・原価管理（コストマネジメント）などの研究		
2. 専門演習の研究内容 営利企業・非営利企業を問わず、企業・組織での戦略策定と経営管理、コストマネジメントのための管理会計の課題を問題にする。それに関連して、文献（教科書、論文、研究用図書）を利用して報告・討議、まとめを行い、課題をもとに、企業調査・訪問調査を行い現実の課題・解決策を考える。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール Ⅰ：基礎教材を利用して、管理会計・原価管理の基礎を学習する、現実を知り、知識の応用について学ぶ。 Ⅱ：Ⅰと同様に、基礎教材の学習を行う。また、事例を利用して、新しい管理会計・原価管理の高度な内容を学習する。近場の企業を訪問して、事業活動の全体像について学ぶ。 Ⅲ：具体的な原価管理・管理会計の研究対象をチーム（2名～4名）で決めて、より上級の図書を利用し、イノベーションの発生とマネジメント事例から経営管理方法について、一定の自分なりの知見獲得をめざす。なお、調査方法については、チームでそれぞれ、方法を確定していくが、そのための文献を利用した深い研究方法についても指導する。 Ⅳ：Ⅲで得た理論・データをもとに、特定の主題をみつけ、それについての卒業研究論文の執筆・報告・完成をめざす。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 使用テキスト：浅田・頼・鈴木・中川「管理会計・入門 第4版」有斐閣。 利用図書 伊藤邦雄「戦略評価の経営学」ダイヤモンド社、2007年。 浅田孝幸・伊藤嘉博「戦略管理会計」中央経済社、2010年。 参考図書 櫻井通晴「インタンジブルズの管理会計」中央経済社、2012年。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 受講の準備として、原価計算、会計学、企業分析論などの会計科目を履修することが望ましい。 なお、配当年次の1～2年の科目として、企業と会計、企業と経営、会計学などの基礎科目などについても理解できたと言えるように学習しておくこと。経営組織論、経営のための数学I、も嫌いにならないように努力しておくこと。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 企業と会計、基礎演習1・2、の単位は取得済み、あるいは、可能であること。英語が嫌いでないこと。		

PHOTO 	教員名 大浦 啓輔	クラス番号 31
教員紹介 専門は管理会計およびマネジメント・コントロールです。企業が経営戦略を実現するためにどのようなマネジメント・コントロールや管理会計システムが有効なのか、その役割や意義を研究しています。近年は、特にサプライチェーンマネジメントや製品開発等を対象とした組織間協働における管理会計の仕組みや役割等を研究しています。趣味はテニス（するのを見るのもの）。香川県出身。oura@fc.ritsumeai.ac.jp		
1. 専門演習テーマ 管理会計システムと会計情報の有用性		
2. 専門演習の研究内容 管理会計は組織内部の会計として組織の経営管理や意思決定に役立つ会計だといわれていますが、会計情報にはどのような特徴があり、企業経営にどのような役割を果たしているのでしょうか。また、会計データを分析することによって、世の中で起きている社会現象や経営現象をどのくらい予測したり説明することができるのでしょうか。本ゼミでは、このような問いのもとで管理会計システムや会計情報の有用性について研究します。管理会計は組織の内部管理のための会計ですので、まだ会社組織に属したことのない学生であるみなさんにとっては少し想像しにくい学問かもしれませんが、管理会計の文献をしっかりと読み、会計の基礎力をつけるとともに、自らの力で財務諸表等の公開データや事例を収集しデータに基づく実証的な研究を行います。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰでは、個人あるいはグループで管理会計領域の研究テーマを探索し、既存の管理会計研究論文を講読し、その内容について発表・討論を行います。その成果は各自のレポートとしてとりまとめもらう予定です。また会計研究の方法について学び、関連する会計データの入手方法および統計的分析や事例分析等の基本的な技法を身につけます。専門演習Ⅱでは、前期に設定した各自の会計学領域の研究課題に基づきゼミ論文を作成します。また、ゼミナール大会あるいは国内の他大学との合同ゼミ等へ参加し、その成果の発表等を行う予定です。専門演習Ⅲ・Ⅳでは卒業論文の執筆の指導を行います。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 参考書・推薦図書 (1) 加登豊『管理会計入門』（日経文庫） (2) 谷武幸『エッセンシャル管理会計』（中央経済社） (3) 横田絵理・金子晋也『マネジメント・コントロール』（有斐閣） (4) 上総康行『ケースブック管理会計』（新世社） (5) 安酸建二『日本企業のコスト変動分析』（中央経済社） (6) 田村威文・中條祐介・浅野信博ほか『会計学の手法』（中央経済社） (7) Malcom Smith「会計学の研究方法」（中央経済社） (8) 森田果『実証分析入門』（日本評論社） (9) Jared P. Lander『みんなのR：データ分析と統計解析の新しい教科書』（マイナビ）		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 会計学（特に管理会計・原価計算）に加え、経営学および統計学に関連した知識を幅広く学習しておくことで演習がより有意義なものになると思います。専門演習開始時点で管理会計の初歩的な知識があることが望ましいです。管理会計論を未受講であれば、管理会計の入門的なテキスト（上記4の（1）など）を読んでおくとい良いでしょう。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） レポート課題に加え、GPAを主な評価対象として選考します。必要に応じて取得単位数をみます。		

PHOTO 	教員名 金森 絵里	クラス番号 32
教員紹介 2000年4月に立命館大学に赴任して今年で17年目になりました。研究面では、イギリス会計史を主に研究してきましたが、福島原発事故以降はエネルギー問題と会計を中心に研究を進めています。京都大学大学院を中退後、イギリスのカーディフ大学で博士号を取得しました。教育面では「連結会計論」を担当しています。本年度は、経営学部国際担当副学部長として経営学部の留学プログラムBusiness Studies Abroad (BSA) の運営に携わっています。プライベートでは3男1女の母親です。		
1. 専門演習テーマ 日本企業の財務諸表分析		
2. 専門演習の研究内容 日本企業の財務諸表を分析します。財務諸表分析は「ファンダメンタル分析」「財務分析」とも呼ばれ、企業会計システムによって作られる財務諸表を中心とした会計情報に特に注目し、そうした情報の意味内容を解釈するプロセスないしは技術です。このような分析技術は、株主・債権者・証券アナリスト・格付け機関・ライバル企業・監督官庁・経営者・従業員・学生など企業をめぐるステークホルダー（利害関係者）それぞれにとって、それぞれの目的と視点から必要になるものです。専門演習では、各自あるいは各グループが1つの業界あるいは企業を取り上げて、このような現実的・実践的・具体的な分析をおこないます。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰ 財務諸表分析に必要となる知識を勉強します。 専門演習Ⅱ 実際に財務諸表分析をおこない、グループ論文として完成させます。 専門演習Ⅲ 財務諸表分析の意義と限界を知ったうえでより総合的な企業分析について勉強します。 専門演習Ⅳ 卒業論文を作成します。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキストは未定です。 参考書およびゼミの学習が始まるまでに読んでおくの良い推薦図書は、 伊藤邦雄著『新・現代会計入門』、日本経済新聞社、2014年 です。また、以下の資料も利用します。 日本企業の財務諸表。 各業種や経営戦略および会計学に関する研究書。 『日経ビジネス』『週刊東洋経済』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス雑誌。 日本経済新聞、朝日新聞などの新聞記事。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 専門演習では日本企業の財務諸表分析を中心に勉強しますが、勉強するなかで財務諸表分析の意義と限界をみきわめてもらうことを目標としています。すなわち、財務諸表分析でわかることも多いですが、財務諸表分析だけではわからないことも多く、企業分析のためにはより多面的な分析が必要になるのです。具体的には、単に「数字」を読み解くだけでなく、その裏にある「人間」の行動を観察しなければなりません。したがって、受講生には単に教わったことを機械的にできるだけでなく、自主的に興味の幅を広げ、人間や社会に対する知的好奇心を持ち、多角的にものを見る視野の広さを備えてほしいと思います。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） GPAや取得単位数が高いに越したことはありませんが、それと同じくらい「やる気」を重視します。		

PHOTO 	教員名 こばやし まみ 小林 磨美	クラス番号 33
教員紹介 京都大学薬学部卒業後、外資系メーカー本社研究員などを経て、大学院に戻り博士号（経済学）を取得しました。ミクロ経済学的手法を用いて金融システムや企業の理論分析をしています。ゼミ募集に関して相談がある場合：件名を「ゼミについての相談」とし、本文に氏名と学籍番号を明記したうえで自分の大学のメールアドレスから先生のアドレスに連絡ください。 mmkbys@fc.ritsumeai.ac.jp		
1. 専門演習テーマ コーポレートガバナンスとコーポレートファイナンス		
2. 専門演習の研究内容 企業にはそこで働く人々だけでなく、資金提供者や取引先などのさまざまな利害関係者が存在します。それらの利害関係を調整し、企業が健全な経営を続けるためにはどのような仕組みや制度が必要なのか、また金融システムの在り方が企業経営にどのように影響を及ぼすのか等について理論的に考えるための枠組みを学習し、実際の企業分析をしましょう。また理論がどのように実証されるのか、データを用いた分析も合わせて行いたいと思います。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール Ⅰ：班に分かれてテキストの発表と、その内容に基づく討論を行う。 〔目標〕自由に意見が言い合えるゼミの雰囲気を作る、分析に必要な手法の基礎を学ぶ。 Ⅱ：テキストや参考文献で学習した理論に基づき、具体的な問題を分析し、発表する。 〔目標〕現実問題を理論的枠組みでとらえられるようになる、論理的な発表を行えるようになる。 Ⅲ：卒業研究のテーマの決定と研究計画の作成および中間発表 〔目標〕研究計画書が作成できるようになる、中間発表を通じて論文の構成を考える。 Ⅳ：卒業論文の執筆とその内容の報告会 〔目標〕卒業論文を仕上げるとともに、研究した内容を分かりやすく伝える能力を身に着ける。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど テキストは、次の二点を考えています： 柳川範之（著）『契約と組織の経済学』（2000）東洋経済新報社 バルナール・サラニエ（著）細江・三浦・堀（訳）『契約の経済学 第二版』（2010）勁草書房 いずれもタイトルには経済学とありますが、内容的には経営学です。 また英文の参考文献も適宜差し込む形で使用したいと考えています。 ただし具体的にどのような教材を用いるかは、ゼミのメンバーが決まってから全員で相談して決めます。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 仲良く楽しいゼミにしたいと考えています。ゼミ活動を通じて友達を作りたい人、ゼミを大学生活のよい思い出にしたい人を希望します。そのためにも発表や討論の準備にさいして協力的に参加してください。無断欠席や遅刻は厳禁とします。とくに発表が当たっているのにもかかわらず遅刻や無断欠席をした場合はゼミの単位はありませんので注意してください。3回生以上では「証券投資論」「資金調達論」などを履修するのが望ましいです。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 取得単位数およびGPAについては高いことが望ましいですが、以下をより重視します： ゼミ生どうして協力して発表準備等ができること、結果にかかわらず一生懸命頑張る気持ちがあること、講義への出席状況を含む生活態度に大きな乱れがないこと。		

PHOTO 	教員名 瀧 博	クラス番号 34
教員紹介 名古屋出身。名古屋大学で経済学の博士の学位取得。専門は監査論。職業会計士のプロフェッション論・法的責任論、財務諸表上の重要な虚偽表示リスクの評価、コーポレート・ガバナンスなど。2009～2016年度まで立命館大学の経営大学院に所属（担当科目はアカウンティング、コーポレートガバナンス等）。公認会計士試験試験委員（監査論、2008-2010年）。日本監査研究学会理事（2016～現在）。現在の趣味は、水泳とマインドフルネス。 質問はこちらへ→ <hrstk@ba.ritsume.ac.jp>		
1. 専門演習テーマ テクノロジーの進化と企業会計制度の未来		
2. 専門演習の研究内容 2013年、オクスフォード大学の研究者が、人工知能の発達によって失われる職種に関する論文を公表しました。また、アメリカの研究者による「シンギュラリティ」という用語がわが国でも議論されるようになってきています。人工知能を含むテクノロジーの発達は、この社会を大きく変える可能性をもっています。従来の企業がなくなり、特定の職種はAIに置き換わっていきます。アメリカでは公認会計士による監査の一部は、すでにAIを含む高度な技術によって行われています。また、企業における法律、税金、会計と言った分野は、すでにグローバル企業では特定の国に拠点を置いて一括して処理されていますが、それが将来はクラウド化されていく、そういう世の中になるようです。 しかしながら、人工知能が監査を行って失敗した場合に誰が責任を取るのかなど、社会制度は多くの場合、まったく対応できていないのが現状です。さらにいえば、これは一国の問題でなく、グローバル市場での問題でもあり、制度設計をさらにややくしくする可能性があります。 このゼミでは、これから20年後、30年後の世界、社会を考えて、その中での企業会計制度のあり方を考えていきたいと思っています。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰ&Ⅱ 現在、AI（人工知能）は、われわれの社会でどのような役割を演じているか、その可能性はどうか。そして今後20年かけてどのように進化し、われわれの社会、制度、そして仕事はどのように変容していくかをリサーチします。半期ごとに、簡単なレポートをまとめます。 専門演習Ⅲ&Ⅳ 専門演習Ⅰ&Ⅱで学習した内容をもとに、AI化が会計や監査制度にもたらす影響について、各自でテーマを決めて、卒業論文としてまとめていく。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど AI化が会計や監査制度を含めて企業制度にもたらす影響については、ゼミで行うのは初めてで、また、初心者用の適当な参考文献がなく、現在検討中ですが、次を予定しています。 齋藤和紀著『シンギュラリティ・ビジネス AI時代に勝ち残る企業と人の条件』幻冬舎新書 野村直之著『人工知能が変える仕事の未来』日本経済新聞出版社		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など ゼミでは、半期ごとにレポートを課します。テーマはゼミの中での学習を基礎に、自分なりに調査をした内容をまとめます。また、進捗は各週のゼミで報告してもらいます。ゼミは、情報交換の場にできればと思います。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 将来多様に変貌する社会の中で、自分のキャリア形成に真剣に関心がある人に来て欲しいと考えています。（レポートで見ます） また、ゼミでは、時間・約束を守る、きちんと普通の受け答えができる人、他人の意見に関心をもち尊重できる人、人生何が面白いかわいつも考えている人、チャレンジ精神旺盛な人、また、世の中を多様な視点から考えられる人を希望します。（面接で判断します） 学力は参考にしません。		

PHOTO 	教員名 西谷 順平	クラス番号 35
教員紹介 専門分野は、財務会計です。研究については、去年発刊した『保守主義のジレンマ-会計基礎概念の内部化』中央経済社などを参照下さい（図書館や生協書籍コーナーにあります）。学部授業担当は、「財務会計論」をメインに、留学プログラム（BSA）の担当をしたり、片山・東中川・辻本三兄弟が講義する「簿記入門I, II」、「会計キャリアI～V」の科目責任者をやっていたりします。たまに、「企業と会計」を担当したりすることもあります。 基本的には、大阪南部生まれ神戸育ち、東京での大学生生活9年・青森での新任教員生活5年を経て関西に回帰した、海外出張・沖縄旅行・飲み会・勉強会が大好きな明るいアラフィフオヤジで、ついでに双子男児のパパです。趣味は30年以上やっているバドミントンですが、現在、片山先生と船舶二級を取って陸釣りから船釣りへの昇格を計画しています。		
1. 専門演習テーマ 会計の国際化と国際キャリア形成についての分析 —国際キャリア早期形成のためのUSCPA在学中取得を兼ねて—		
2. 専門演習の研究内容 国際化した資本主義社会では、より厳しい人材競争が繰り広げられる。そこでは、専門性や英語力が厳しく問われることにはなるが、力をつければ地球を舞台にしてどのように生きていくかというキャリア形成の幅が広がってもいく。本専門演習では、世界的に専門職として認知されている会計をキーワードにして、いろんな角度から国際化とキャリアについての研究を学生に求める。同時に、学生自身に、会計キャリア・国際キャリアを進むに足る実力をつけて卒業してもらうのが目標である。		
3. 専門演習 I～IVの運営方法・スケジュール 三回生から四回生前半までは、USCPAについての勉強および手続きを進めるとともに、国内外の会計プロフェッショナルや国際キャリアを形成した先輩に話を聞いて見聞を広めることに主眼を置く。英字新聞や日経新聞、雑誌などの記事を使った討論や、経営経済シミュレーション演習（MESE）を通した他ゼミ、他大学ゼミとの交流も行う予定である。四回生の夏休み以降は、実際にUSCPAを受験したり、卒業論文を書いていったりすることになる。 <u>（注意点！）シンガポール、中国、米国およびAPUなどへのゼミ合宿、ビール会社などへの企業見学が西谷ゼミでは定番です。海外で成功したセレブな先輩におごってもらったり、会計を学ぶ外国の学生などと交流できたりするので満足度は非常に高いですが、大学からの補助があったり格安航空を使ったりするもののバイトが必要かもしれません（ちなみに上海は往復航空券2万円以下です）。</u>		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど USCPA受験に際しては、米国カリフォルニア州のUSCPA予備校Roger CPA Review、在日サポートのオフィスアメリカ（http://www.applycpa.com/）と提携しながら進めていく予定です（https://www.rogercpareview.com/）。ちなみに、USCPAは合格率約50%、最終合格までにかかる費用も5分の1程度、一般に勉強開始から2年以内に合格できる日本の公認会計士資格とは似て全く異なるものです。参考書その他、研究について必要なものはゼミなどでその都度お知らせします。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 受講生には、積極的な姿勢でゼミに参加し、発言と議論を行い、他のゼミ生と切磋琢磨することを強く望みます。週一回の限られた時間、厳しいながらも楽しくやりましょう。3回生以上で履修することが望ましい科目は、「財務会計論」「英文簿記I～III」「会計制度論」ぐらいですが、USCPA受験資格として三回生前期遅くても後期終了時までには要卒単位108単位、会計単位が15単位以上が必要となりますので注意して下さい。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 課題レポート、これまでの成績（GPA、取得単位数）、面談時における積極性などを総合的に勘案します。「簿記入門I, II」「英文会計I」の単位があれば尚可です。<u>会計学や英語の得意不得意よりも、やる気のある面白い人を歓迎します。ちゃんと伸ばしますのご安心を。</u>むしろ、日本の公認会計士資格とか日商簿記1級はハードだから手が出せないけど、<u>会計プロフェッショナルとか国際キャリアに興味ある！</u>という人を歓迎します。もちろん、日米両方を狙う人も歓迎します。		

PHOTO 	教員名 播磨谷 浩三	クラス番号 36
教員紹介 「金融論」と「経営財務論」を主に担当しています。専門の研究領域は、金融機関の経営特性に関する財務データを用いた実証分析です。特に、最近では、地域経済の活性化に果たす金融機関の役割について、自身の関わりが深い北海道などの特定地域を題材として検証を進めています。私自身、5年間の銀行員としての社会人経験がありますが、現在の金融機関を取り巻く環境は、当時と比べて大きく様変わりしています。命の次に大切なお金を扱う金融機関とはどのような存在なのか、就職希望先かどうかに関係なく、経済学や経営学の知識を通じて受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。		
1. 専門演習テーマ 金融機関のビジネスモデルの将来展望を考える		
2. 専門演習の研究内容 近年、金融機関を取り巻く環境は激変し、銀行や保険会社、証券会社に関わらず、これまでのビジネスモデルからの転換が求められています。このゼミでは、ある程度の金融に関する基礎的な知識があることを前提に、これからの金融機関のビジネスモデルはどうあるべきかについて、様々な視点から考えることを目的とします。 基本的に、グループ単位での研究報告と質疑応答を中心にゼミを運営します。金融機関に関わる内容であればグループ単位で決めたテーマを尊重しますが、ある程度のテーマが事前に設けられている対外的なゼミナール大会への参加を目指しますので、必要に応じて修正を求める場合がありますのでご了承ください。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール ・ 3回生の前半（専門演習Ⅰ）では、グループ別にテーマを設定し、グループ報告と参加者との質疑応答を行います。 ・ 3回生の後半（専門演習Ⅱ）では、ゼミナール大会などの準備を行い、グループ単位で決めたテーマに基づく論文作成を目指します。 ・ 4回生の前半（専門演習Ⅲ）では、個々の研究テーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行います。 ・ 4回生の後半（専門演習Ⅳ）では、個々の卒業論文のテーマについて、進捗状況を中間報告の形式で確認し、質疑応答を通じて論文作成と改訂作業を進めていきます。 * 外部のゼミナール大会のエントリー期日が早い場合、ゼミの登録予定メンバーが決まった時点で、3回生のゼミが始まる前にグループ分けを行う予定です。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 開講前にあらためてお知らせします。なお、3回生ではグループ単位での研究報告を中心にゼミを進めていきますので、共通テキストを輪読するのではなく、グループ単位で必読テキストや参考文献を提示する予定です。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 現実の世の中の問題に関心を持って、自主的にゼミに参加してください。特に、卒業論文の作成がゼミの単位修得の条件になっていることをよく自覚し、このゼミで何を学びたいのかをよく考えて応募を判断してください。決して楽なゼミではないですが、金融業界に少しでも関心のある（就職先として勧めているわけでは決していない！）受講生にとっては、有意義な経験がでけると思います。 3回生以上で履修が望ましい科目については個別のゼミ説明会の際に説明をしますが、もし2回生時点で「金融論」を履修していない学生がいれば（単位が未修得であった場合も含む）、必ず3回生で履修をしてください。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 個別で開催するゼミ説明会には必ず参加して下さい。説明会の開催予定日時の都合が悪い場合は、メールにてharimaya@fc.ritsumei.ac.jpまで連絡して下さい。個別に面会可能な日時を調整します。なお、選考に際しては、志望理由と課題レポートの内容を重視します。		

PHOTO	教員名	クラス番号															
 (c)SunabeUmahito	まつうら 松浦 そういち 総一	37															
教員紹介																	
会計学と統計学と経済学が好きです。お酒と飲み会も好きです。Mac ユーザーです。言語は Python を勉強中です。統計分析には STATA と R を使ってます。論文や講義スライドは L^AT_EX₂ε で書いてます。Word や Excel は極力使いたくありません。エディタは Sublime Text と Atom が好きです。HTML や CSS もさわります。自分のウェブサイトも作ってます。 永遠の会計士受験生でもあります。租税法と企業法は好きですが監査論は苦手です。簿記 1 級ホルダーですがほぼ忘却の彼方です。利益操作や会計利益と課税所得との関係に興味があります。最近のヒット作は「終末な」。連絡先はこちら → matsuura@fc.ritsumeai.ac.jp																	
1. 専門演習テーマ																	
かいけい けいえい ぶんせき 会計・経営のデータ分析																	
2. 専門演習の研究内容																	
企業経営の現場で起こっている問題を、経済理論を用いて単純化することで問題の本質を理解し、因果関係を示す仮説を構築し、入手可能なデータを集め、統計学・計量経済学を用いて分析し、一見バラバラに生じている実務の中から共通するパターンを見つけ出すことで、会計・経営の説明理論を構築することを目指します。松浦ゼミでは勉強ではなく「研究」を行うので、勉強は各自で行ってください。 そのプロセスの中で得た知識を基礎に、財務諸表分析や企業価値評価モデルを学習します。そして日本経済新聞社が主催する「日経ストックリーグ」に参加し、企業分析と実証分析の力を試みます。 続きは Web で → http://so-ichi.com/teaching/semi2017.html																	
3. 専門演習 I ～ IV の運営方法・スケジュール																	
ゼミ生が主体性をもって松浦ゼミを運営していきます。勉強・研究を進める中で、本当に理解できた場合に「分かった。」、少しでも分からないときは「分からない。」と言えるゼミを目指します。用語の定義と科学的推論と因果関係と証拠を重視します。 <table><tr><td>2 年後期</td><td>統計学とプログラミング言語 R の学習</td></tr><tr><td>3 年前期</td><td>計量経済学と R の学習とゼミ対抗運動会への参戦</td></tr><tr><td>3 年後期</td><td>企業価値評価の学習と「日経ストックリーグ」への参戦、国際学会での研究報告</td></tr><tr><td>4 年通年</td><td>卒業論文の研究テーマの決定と「将来子供に自慢できる卒業論文」の執筆</td></tr></table> - 日経ストックリーグについては、http://manabow.com/sl/ を参照 - その他、各種勉強会、宿舎、旅行、OB/OG との交流会、他大学との合同企画などを予定 - ゼミは毎週 3 時間程度の時間を費やすので、ゼミの日はバイトなど予定を入れないこと			2 年後期	統計学とプログラミング言語 R の学習	3 年前期	計量経済学と R の学習とゼミ対抗運動会への参戦	3 年後期	企業価値評価の学習と「日経ストックリーグ」への参戦、国際学会での研究報告	4 年通年	卒業論文の研究テーマの決定と「将来子供に自慢できる卒業論文」の執筆							
2 年後期	統計学とプログラミング言語 R の学習																
3 年前期	計量経済学と R の学習とゼミ対抗運動会への参戦																
3 年後期	企業価値評価の学習と「日経ストックリーグ」への参戦、国際学会での研究報告																
4 年通年	卒業論文の研究テーマの決定と「将来子供に自慢できる卒業論文」の執筆																
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど																	
3 年次に統計、プログラミング、企業価値評価の基礎を習得するために、以下の書籍を使います。4 年次は卒業論文の執筆が中心となるので、教科書を使った勉強はありません（希望があれば勉強会を開催）。 <table><tr><td>3 回生前期</td><td>教科書</td><td>星野匡郎・田中久稔 (2016) 「R による実証分析」 オーム社</td></tr><tr><td></td><td>参考書</td><td>R サポーターズ (2017) 「パーフェクト R」 技術評論社</td></tr><tr><td></td><td>参考書</td><td>伊藤公一郎 (2017) 「データ分析の力」 光文社</td></tr><tr><td>3 回生後期</td><td>教科書</td><td>徳賀芳弘 編 (2016) 「京都企業 歴史と空間の産物」 中央経済社</td></tr><tr><td></td><td>参考書</td><td>伊藤邦雄 (2014) 「新・企業価値評価」 日本経済新聞出版社</td></tr></table>			3 回生前期	教科書	星野匡郎・田中久稔 (2016) 「R による実証分析」 オーム社		参考書	R サポーターズ (2017) 「パーフェクト R」 技術評論社		参考書	伊藤公一郎 (2017) 「データ分析の力」 光文社	3 回生後期	教科書	徳賀芳弘 編 (2016) 「京都企業 歴史と空間の産物」 中央経済社		参考書	伊藤邦雄 (2014) 「新・企業価値評価」 日本経済新聞出版社
3 回生前期	教科書	星野匡郎・田中久稔 (2016) 「R による実証分析」 オーム社															
	参考書	R サポーターズ (2017) 「パーフェクト R」 技術評論社															
	参考書	伊藤公一郎 (2017) 「データ分析の力」 光文社															
3 回生後期	教科書	徳賀芳弘 編 (2016) 「京都企業 歴史と空間の産物」 中央経済社															
	参考書	伊藤邦雄 (2014) 「新・企業価値評価」 日本経済新聞出版社															
5. 受講生に望むこと、3 回生以上で履修することが望ましい科目など																	
データを分析することが好きな人・分析スキルを習得したい人に向いているゼミだと思います。ゼミでは毎週 2 コマ程度をつかって演習を行います。ゼミの日にはバイトなどの予定を入れないようにしてください。事前に必要な専門知識はありません。足りない知識を自主的に学習する態度が最も重要されます。またゼミ活動に積極的に関与することも重要です。 履修推奨科目：組織の経済学、企業分析論、財務会計論、証券投資論、オペレーション・リサーチ		[注記] 自主的に動ける人 ゼミを休まない人 タバコ吸わない人															
6. 選考の際の評価ポイント (GPA、取得単位数など)																	
提出された課題と面接を中心に、次の評価尺度に基づき総合的に判断します。 <table><tr><td>主たる評価尺度</td><td>「基礎統計」・「企業と会計」の成績、GPA ≥ 2.0</td></tr><tr><td>補足的な評価尺度</td><td>「基礎演習」の成績、取得単位数</td></tr></table>			主たる評価尺度	「基礎統計」・「企業と会計」の成績、GPA ≥ 2.0	補足的な評価尺度	「基礎演習」の成績、取得単位数											
主たる評価尺度	「基礎統計」・「企業と会計」の成績、GPA ≥ 2.0																
補足的な評価尺度	「基礎演習」の成績、取得単位数																
<pre>coin=c("表","裏"); n=100; trial=1000 toss = foreach(i=1:n, .combine=c) %do% { res = sample(coin,trial,rep=T) sum(res=="表") } toss %>% hist</pre>																	

PHOTO	教員名	クラス番号
	みたに ひでたか 三谷 英貴	38
教員紹介 大阪府柏原市出身，関西学院大学商学部卒業，京都大学大学院修了，金融庁金融研究センターで研究官として勤務後，2010年4月より経営学部に着任しました。 専門演習としては，皆さんが8期生ということになります。専門演習の内容・運営に関して「こういう風にしたい」「こうすればもっと良くなるのでは？」といったアクティブな意見があれば積極的に取り入れていきたいと思います。 (連絡先) mitanih@fc.ritsumei.ac.jp		
1. 専門演習テーマ コーポレートファイナンスを通して企業経営を考える		
2. 専門演習の研究内容 企業経営では「資金をどのように調達すればよいのか」「調達した資金をどのように投資すればよいのか」「投資からのリターンをどのように資金提供者に還元すればよいのか」といった資金の流れが重要になります。経営学において，資金の流れを扱うこのような研究領域はコーポレートファイナンスと呼ばれています。専門演習では，コーポレートファイナンスを通して企業経営を取り巻くさまざまな諸問題を研究していくことになります。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール ＜専門演習Ⅰ・Ⅱ＞ 専門演習Ⅰ・Ⅱでは，証券ゼミナール大会（12月に東京で開催）という全国規模の大会への出場を目標に，グループ研究を中心に運営します。今年，取り組んだテーマは「日本企業の資金調達のあり方」というものです。 私の専門演習では，授業や専門演習以外の時間に，報告準備や各種ゼミ活動のために時間を割いてもらわないといけません。特に，夏休みには，証券ゼミナール大会に向けた論文作成のために，グループで自主的に活動してもらうことになります。この夏休みのこの活動も評価の対象となりますので，ご注意下さい ＜専門演習Ⅲ・Ⅳ＞ 専門演習Ⅲ・Ⅳでは，各自，関心のあるテーマについて研究し，ゼミでの報告・討論を通して，卒業論文の作成にあたります。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 専門演習では，次のテキストを用いる予定です。また，必要な文献・資料は適宜配布します。 ・砂川信幸 / 川北英隆 / 杉浦秀徳 / 佐藤淑子 著 『経営戦略とコーポレートファイナンス』，日本経済新聞社		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 1回生の「経営財務論」の内容がコーポレートファイナンスです。さまざまな企業経営の中でも，お金に焦点を絞り「お金と企業経営との関係を考えよう」という分野がコーポレートファイナンスです。ちなみに，専門演習では，ややこしい計算問題は出てきません。経営財務論の単位は修得しておいて欲しいですが，数字が苦手でも問題ありません。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 受講を希望する（もしくは，とりあえず話でも聞いておこうという）人は，教員紹介の欄にある連絡先までメールをお願いします。 選考にあたっては「（ある程度）成績の状況」「課題の完成度」はもちろんのこと「専門演習に対する意欲」や「研究テーマへの関心の強さ」など総合的に評価します。 今年は仕事の関係上，研究室にほとんどいないと思いますので，研究テーマやゼミ活動などに少しでも興味を持たれた方はとりあえずメール下さい。		

PHOTO	教員名	クラス番号
	佐伯 靖雄	39
教員紹介 徳島県生まれの愛媛県育ち。本学政策科学部卒、民間企業勤務を経て本学経営学研究科に進学・修了。2010年博士（経営学、立命館大学）、2016年博士（経済学、京都大学）。本学経営学部助教、名古屋学院大学商学部講師を経て、2015年4月より本学ビジネススクール（大学院経営管理研究科）で経営戦略系科目を担当しています。生産管理論が専門で、自動車産業の分業システムについて研究しています。学部生時代はめいっぱい堕落した生活を送り、就活では大いに不満を残し、自動車の新車開発の現場で絶望を感じるなど、大学教員らしからぬ挫折を多々経験しながら今に至ります。2016年から2年間教養ゼミナールで担当した「茨木市地域ブランド振興プロジェクト」を専門演習に発展させ開講します。 yst07993@fc.ritsumeit.ac.jp		
1. 専門演習テーマ 地域プロモーションと企業：茨木市の経済振興を中心に		
2. 専門演習の研究内容 本ゼミでは、OICが立地する大阪府茨木市に固有の地域資源を発掘し、それらの資源と茨木市そのものを対外的に訴求していくことを目的としている。分析対象は企業と自治体の連携のあり方である。この活動をつうじて、立命館の第3の地元である茨木市の地域社会・経済が今後いっそう発展していくためのきっかけを提供していく。ただしこの取り組みは、単なる地元愛の醸成を目的とするものではない。急速な人口減少社会に入った日本の、その中でも地方の置かれた環境はとても厳しい。したがって地域プロモーションは、地方そのものの生き残りを左右するきわめて重要な社会的課題なのだとすることをゼミの共通理解としたい。 活動は茨木市内に限定せず、全国各地の成功事例を実際にフィールドワークで確認し、優れた方法論を茨木市に積極的に移転していく。また本ゼミは、茨木市企画財政部まち魅力発信課、都市整備部北部整備推進課という2つの部課から問題提起を受け、それをプロジェクト・チームごとに解決していくことになる。きわめて実践性の高いゼミ活動である。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰ：グループ単位での指定文献の輪読（基礎知識の習得、アカデミックリテラシーの訓練） 学術調査の作法習得、茨木市の連携部課との交流 専門演習Ⅱ：グループ単位でのプロジェクト・ベース研究 （重要文献の紹介、調査の経過、分析結果の報告等を毎回行い、グループ論文に集約） 専門演習Ⅲ：個人単位でのテーマ選定、文献入手、研究計画書の作成 専門演習Ⅳ：研究計画書にもとづき卒業論文の執筆 ※ 3回生夏季休暇中に愛媛県今治市の「今治タオル」、同県松山市のゆるキャラ「みきゃん」のプロモーションの経緯と課題について実地調査を行う。秋には岡山県真庭市で林業再生の事例を実地調査する。 ※ その他随時実務家ゲストスピーカーの招聘を予定している。就職活動対策もこのタイミングで実施。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 使用テキスト（予定） ・増田寛也編[2014],『地方消滅：東京一極集中が招く人口急減』中央公論新社 ・NHKスペシャル取材班[2017],『縮小ニッポンの衝撃』講談社 ・木下斉[2016],『地方創生大全』東洋経済新報社		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など 受講生に望むこと 評論家や無鉄砲なだけの行動派は不要です。地道に調べて学び、素直に人の意見を聞く姿勢がある人を望みます。積極性と明るさを持った人に向くゼミだと思います。 注意事項（調査研究旅費と調査日程について） フィールドワークが多いゼミですので、3回生時に約7～8万円程度かかります（一部大学の補助あり）。 企業訪問はウィークデイが基本のため、実地調査日程として平日を指定することがあります。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 課外活動での拘束時間がとても長くなることが予想されるため、ゼミに最大限コミットできる人を望みます。取得単位数は問いませんが、累積GPAは概ね2.5以上を要求します。 ※選考プロセスに関係なく、関心がある人は直接AS9613（佐伯研究室）まで相談に来て下さい。アポなしも可ですが、メールで予約を取って頂くのが確実です。		

PHOTO 	教員名 前田 東岐	クラス番号 40
教員紹介 本学の大学院・経営管理研究科（ビジネススクール）に所属して、組織行動・キャリア開発・人的資源管理などの科目と院生のゼミナールを担当しています。経営学部でのゼミナール担当するのは1年ぶりです。新しい出会いを非常に楽しみにしています。		
1. 専門演習テーマ 組織における個人 ～組織を通じた自己実現について～		
2. 専門演習の研究内容 私たちが生きる現代社会においては、いかなる人も組織とは無関係では存在できません。いわば「組織の時代」ともいえる現代社会において、私たちは個人としてどのようにあるべきなのでしょうか。 このことについて各自の考えを深めること、そのために組織論分野のキーワードとして、モチベーション、リーダーシップ、自己実現などを学ぶことを、ゼミナールのテーマとします。 経営学部学生の皆さんの目的（卒業後の進路）は、多種多様であると思いますが、「組織における個人」について関心を持ち、学びたいという意欲のある方の参加を期待します。		
3. 専門演習Ⅰ～Ⅳの運営方法・スケジュール 専門演習Ⅰ（3回生前期）：テキストを通じて組織論分野の基礎知識の修得を目指します。期末には、それらの知識を自分自身のキャリア形成に結びつけることをテーマにレポート作成を行ないます。 専門演習Ⅱ（3回生後期）：テキストを通じた組織論分野の基礎知識の修得と共に、ゼミナール大会への参加を目的として、少人数グループで論文作成を行ないます。 専門演習Ⅲ（4回生前期）：テキストを通じた組織論分野の応用的な知見の修得と共に、キャリア形成に関連したテーマを各自で設定し、卒業論文作成に向けた準備を行ないます。期末には、それらを研究計画書としてまとめます。 専門演習Ⅳ（4回生後期）：各自が、研究計画書に沿って、卒業論文の完成を目指します。		
4. 使用テキスト・参考書・推薦図書・役立つWEBページなど 今回使用するテキストは、ゼミナールのメンバーの関心を踏まえて初回に決定します。 なお参考までに、過去の学部ゼミナールで使用したテキストの例を以下に掲げます。 金井壽宏『組織行動の考え方』東洋経済新報社、 S・P・ロビンズ『新版 組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社、 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ、 R・チャランほか『リーダーを育てる会社 つぶす会社』英治出版、 H・ミンツバーグ『H・ミンツバーグ経営論』ダイヤモンド社、 高橋伸夫『虚妄の成果主義』日経BP社、 玄田有史『働く過剰』NTT出版、 本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』NTT出版 など。		
5. 受講生に望むこと、3回生以上で履修することが望ましい科目など テキストの決定などを含めゼミナールの運営にあたっては、メンバーの意見を取り入れます。したがって、より望ましい学びを実現するために、メンバーの皆さんひとりひとりの積極的な関与を期待します。		
6. 選考の際の評価ポイント（GPA、取得単位数など） 「志望理由書」の内容と、GPA、取得単位数をもとに選考を行ないます。		

■休学・退学前に専門演習に所属しており、復学・再入学後の履修を希望する場合は本用紙を提出してください。

復学・再入学に伴う「専門演習」履修申請書

ふりがな				
氏名				
学生証番号 (回生)	(回生)			
連絡先	携帯電話		e-mail	@ed.ritsumeai.ac.jp
専門演習担当 教員名				
休学期間 (または退学年月日)	20 年 月～ 20 年 月			
休学・退学前に単位 取得した専門演習	(1)専門演習Ⅰ (2)専門演習Ⅱ (3)専門演習Ⅲ *単位取得した科目に○をつけてください。			

《学部使用欄》

所属クラス確認	システム変更 完了日	備考

■本申請書は、留学からの帰国時に、速やかに提出してください。

留学に伴う「専門演習特別履修」申請書

* 留学とは、立命館大学経営学部および立命館大学国際部が提供する留学プログラムを指します
(休学して私費留学をする場合、特別履修の対象とはなりません)

ふりがな				
氏名				
学生証番号 (回生)	(回生)			
連絡先	携帯電話		e-mail	@ed.ritsumeai.ac.jp
専門演習担当 教員名				
留学プログラム名	(1)BSAⅡ (2)BSAⅣ (3)全学交換留学 (4)UBC-JP プログラム (5)DUDP (7)全学プログラム ()			
留学期間	20 年 月～20 年 月	留学先大 (国)	()	
留学の為に受講出来 ない専門演習	(1)専門演習Ⅰ＝3 回生前期 (2)専門演習Ⅱ＝3 回生後期 (3)専門演習Ⅲ＝4 回生前期			

* 「専門演習Ⅳ」および「卒業論文」は受講免除の対象となりません。

《学部使用欄》

副学部長 確認	システム変更 完了日	変更内容	備考
		☐ 8 単位パッケージ変更 ☐ 6 単位パッケージ変更 ☐ 4 単位パッケージ変更	

